

岡山大学構内遺跡調査研究年報17

1999年度

2000年8月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山大学構内遺跡調査研究年報17

1999年度

2000年8月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

1999年度における当センターの事業は、ここ数年と同様、多くの発掘調査で追われました。津島地区の環境理工学部校舎（Ⅱ期）と総合研究棟、鹿田地区の医学部附属病院病棟と医学部共同溝等において、それぞれ意義ある調査成果を得ることができました。必要な発掘調査を推進することは当然としても、調査にあたる人員に限りがあり、すでに発掘調査を終えた資料の整理や報告書を刊行する作業の遅滞が問題となってきます。遺跡は人びとの共有文化財であり、発掘調査の実施後は、できるだけ速やかに調査の成果を学術報告書として公にする責任があります。年々重くなる課題ですが、各方面のご協力も得つつ解決に努めたいと思っています。

さて、1999年度においては、構内遺跡の保護と調査およびセンター組織のあり方等について、かなり大きな変化がありました。

第1は、1999年9月に本センター管理委員会が、津島地区東北隅地域に学内掛置として遺跡保護区を設定するよう決定したことです。これに基づき、同年12月、施設設定委員会は施設長期計画配置図に遺跡保護区の範囲（約17,000平方メートル）を明示しました。この保護区域には、周辺地域におけるこれまでの調査で縄文時代の集落や食料貯蔵穴、弥生時代以降の水田遺構が濃密に分布することが分かっています。重要な遺構が予想される区域を今後の施設建設予定地からあらかじめ除外しておき、遺跡の保護をはかりうるという趣旨です。将来は遺跡公園のようなかたちで整備し、本学の研究教育や地域を含めた学校教育・生涯教育の場としても活用していくことが期待されます。

第2は、構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項の制定です。本学が構内遺跡の発掘調査をはじめて約18年になりますが、この間、さいわい大きな事故もなく経過してきました。しかし近年のように相当な面積の発掘調査が絶え間なく続くと、現場に何らかの無理が生じ、思わぬ事故につながりかねない危険性が増大します。

本センター運営委員会では、こうした点にも留意し、1999年度に発掘調査にかかる安全管理事項の審議を進めました。その決定内容は2000年5月15日付けのセンター長と施設部長名による文書となり、事務局施設部の監督職員および請負業者の常駐させる現場代理人のもとで、発掘現場の一層の安全強化をはかることとなりました。センターでは、これとあわせ、調査を指揮する専任教官が地山掘削と土止め工の技能講習を受講することとし、すでに専任教官全員がこれを修了しました。

第3は、センターに所属する専任助手の採用条件の変更です。本学では1999年3月に学内共

同利用施設における助手の任期に関する規程ができたため、本センターについても、1999年度助手採用から任期制が適用されることとなりました。本センターの場合、助手の任期は3年で、再任可（原則として1回）とされています。これは、従来からセンター助手の採用・転任がおおむね3年から5年のサイクルで行われてきた実績をふまえたものです。

第4は、本センターの将来構想にかかわります。センター管理委員会は大学博物館の創設を含むセンターの将来構想を1997年に決定しておりますが、2000年3月に作成された『21世紀の岡山大学構想』においても人文学博物館の設置がとりあげられました。21世紀に向けた基盤整備の1つとして本学が積極的に設立していくとする内容であり、本センターの目指す方向と密接にかかわります。学内ではすでに13部局の委員等で構成される岡山大学総合博物館（仮称）構想検討会が活動を進めており、1999年度には冊子『岡山大学自然と人間の共生博物館』の作成やそれに基づく学外アンケート等が実施されました。本センターは、同検討会の一員として引き続きこうした活動の推進に貢献していく必要があると思われます。

以上、1999年度は発掘調査に明け暮れたとはいえ、センターのいくつかの面でかなり大きな動きがあったわけです。このほか、職員の尽力によりセンター報22・23号と年報1冊を定期刊行し、1997年度に行った鳥取県三朝町固体地球研究センター実験研究棟建設にかかる福島遺跡の発掘調査報告書も刊行することができました。

調査をはじめとするセンターの事業の推進にあたっては、本学事務局をはじめ、関係部局、各位から多くのご支援・ご協力を賜りました。あらためて厚くお礼申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稻 田 孝 司

例　　言

- 1 本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1999年4月1日から2000年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
 - 1) 津島地区では、国十座標第V座標系（X=-144,500m, Y=-37,000m）を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する（図22）。
 - 2) 鹿田地区では、国十座標第V座標系（X=-149,800m, Y=-37,400m）を起点とし、座標軸をN-15°-Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を基準として用いており、図で示す場合は一辺10m四方の方形地区割りを用いている。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次番号で呼称し、「試掘調査」「立会調査」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、「試掘調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 附表2-(2)に掲載する調査一覧については、中世層まで掘削したものを対象とし、その他については除外した。未掲載のデータについては、当センターにおいて管理している。
- 8 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 9 本文は岩崎志保・喜田敏・豊島直博・野崎貴博・横田美香が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 10 編集は稻田孝司センター長の指導のもとに、岩崎志保が担当した。
- 11 本年報に掲載の地形図は、すべて国土地理院発行の1/25000「岡山北部」・「倉敷」を複写したものである。

岡山大学構内遺跡調査研究年報17 1999年度

目 次

第1章 1999年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
第1節 調査の概要	1
第2節 発掘調査	1
1 津島地区	1
(1) 津島岡人遺跡第22次調査〈環境理工学部校舎Ⅱ期〉	1
(2) 津島岡人遺跡第23次調査〈総合研究棟〉	7
2 鹿田地区	10
(1) 鹿田遺跡第9次調査・第11次調査〈医学部附属病院病棟Ⅰ期〉	10
(2) 鹿田遺跡第10次調査〈医学部共同溝〉	16
第3節 試掘調査	19
(1) 総合研究棟新館に伴う試掘調査	19
(2) 工学部電波暗室新館に伴う試掘調査	22
第4節 立会調査	22
1 津島地区	22
2 鹿田地区	23
第2章 1999年度普及・研究・資料整理活動	32
1 資料整理	32
2 刊行物	32
3 調査員の活動	32
4 日誌抄	35
5 1999年度までの遺物保管状況	36
6 遺物の保存処理	38
7 利活用状況	39
a. 資料等の貸し出し	39
b. 展示・発掘調査等見学状況	40
第3章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	41
第1節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程	41

1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程	41
2	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程	42
3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程	43
4	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程	44
第2節	1999年度埋蔵文化財調査研究センター組織	45
1	センター組織一覧	45
2	管理委員会	45
3	運営委員会	46
第3節	1999年度審議・決定事項	47
1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則等の改正	47
2	岡山大学津島地区東北隅地域の遺跡保護について	51
3	岡山大学学内共同利用施設における助手の任期に関する規程	53
4	岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項	54
第4章	1999年度業務のまとめ	56

挿 図 目 次

図1	津島岡大遺跡第22次調査地点位置図	1
図2	同 土層断面図	3
図3	同 繩文～弥生時代検出遺構平面図	5
図4	同 古代検出遺構平面図	6
図5	津島岡大遺跡第23次調査地点位置図	7
図6	同 土層断面柱状図と断面位置	8
図7	同 弥生時代～古墳時代の遺構平面図	9
図8	鹿田遺跡第9～11次調査地点位置図	10
図9	鹿田遺跡第11次調査上層断面図	12
図10	鹿田遺跡第9・11次調査 弥生時代検出遺構平面図	13
図11	同 中世検出遺構平面図	15
図12	鹿田遺跡第10次調査地点土層断面図	18
図13	総合研究棟予定地試掘調査地点位置図	19
図14	同 土層断面図	20
図15	工学部電波暗室予定地試掘調査地点位置図	22

図16 同 土層断面図	22
図17 調査18地点位置図	23
図18 同 東壁断面図	23
図19 調査41・46・47地点位置図	24
図20 調査46地点西壁断面図	24
図21 調査46地点概略図	25
図22 津島地区全体図	27
図23 今年度の調査【1】津島地区	29-30
図24 今年度の調査【2】鹿田地区	31
図25 津島地区東北隅地域における遺跡保護区の範囲	52
図26 1998年度までの調査地点【1】津島地区	67-68
図27 1998年度までの調査地点【2】鹿田地区	69
図28 1998年度までの調査地点【3】三朝地区	70

表 目 次

表1 1999年度調査一覧	25
表2 埋蔵文化財調査研究センター収藏遺物一覧	36
表3 第3期木器処理工程	39
附表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	57
附表2 1998年度以前の構内主要調査（1983～1998年度）	58
附表2-（1）発掘調査	58
附表2-（2）試掘調査など	60
附表2-（3）立会調査	62
附表3 埋蔵文化財調査室刊行物	65
附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物	65

写 真 目 次

写真1 鹿田遺跡第9次調査地点弥生時代検出水田跡群	14
写真2 鹿田遺跡第10次調査③区杭群検出状況	18
写真3 鹿田遺跡第9次調査現地説明会開催状況	40

第1章 1999年度岡山大学構内遺跡調査報告

第1節 調査の概要

当センターでは、大学構内における掘削を伴う工事に際し、事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで、発掘調査・試掘調査・立会調査に分けて調査を実施している。

これまでのところ、その調査の対象は津島地区と鹿田地区が中心となっており、津島地区的津島岡大遺跡、鹿田地区的鹿田遺跡いずれも周知の遺跡として、掘削を伴う工事に際し、届出を提出したうえで対応を行っている。

1999年度は、発掘調査5件（津島地区2件・鹿田地区3件）、試掘調査2件（津島地区）、立会調査41件（津島地区18件・鹿田地区23件）を実施した。以下に各調査の概要を述べ、立会調査の詳細については表1にも記す。

第2節 発掘調査

1 津島地区

（1）津島岡大遺跡第22次調査〈環境理工学部校舎Ⅱ期 津島北 AV・AW 02-03〉

a. 調査の概要

4月2日より1999年度の調査に入った。4月から5月初めにかけて、中世面の遺構検出を行った。溝・水口・畦畔である。5月13日からは調査員・作業員を増員して、5月半ばより古代面の調査へと進んだ。古代面では東西方向の大溝と水田畦畔を確認した。古代面の調査は6月2日に終了し、次いで古墳時代の調査に入った。古代層を除去し、10層では溝3条と水口・畦畔を確認した。その後11・12層でも遺構検出を行った。調査区北側部分には、およそ弥生時代～縄文時代前期の河道の埋土が次々に堆積しており、6月中旬からこれを随時除去していくという調査を行った。

6月下旬からは調査区南半で、13層上面の調査に入り、溝1条とピットを確認した。6月23日からは13層と河道4埋土の除去に入り、14層上面、15層（基礎層）上面で最終的な遺構検出を行った。土坑・ピット群の調査を終え、7月

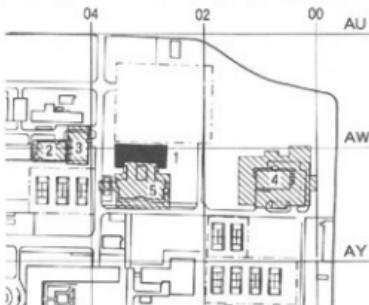


図1 津島岡大遺跡第22次調査地点位置図
(縮尺1/5,000)

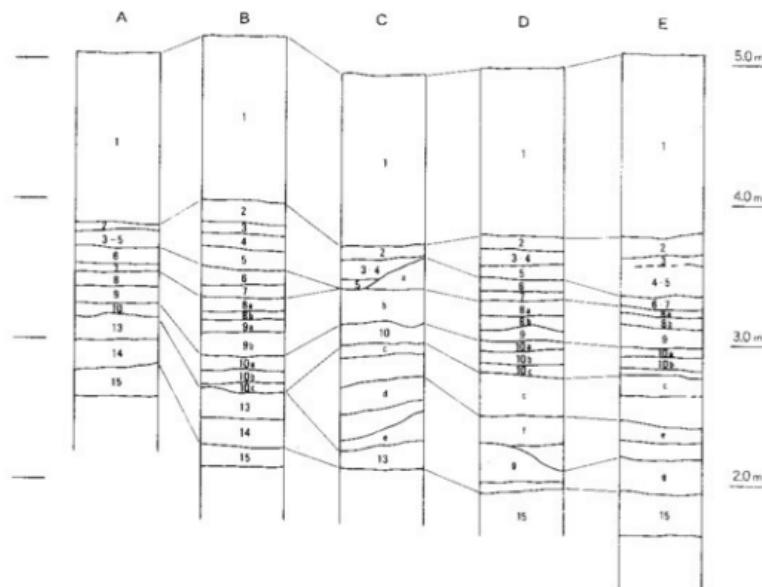
6日に最終写真を撮影し、7月12日に調査を終了した。調査終了後、7月16日に調査区内の各時期上層のサンプリング採取を行った。

b. 調査の概要

(1) 層序(図2)

現地表は、標高5.1m前後である。1層は1907～1908年にかけて旧陸軍により行われた屯営地建設の際の造成土である。2層は近代の耕作土と考えられる上層で、淡青灰色砂質土である。2層下面までを重機により除去したため、2層上面の遺構は断面でのみ確認したもので、東西方向の畝痕及びこれに沿う東西方向の溝が認められた。3～5層は出土遺物から近世の耕作土と考えられる。3層上面の標高は3.6～3.85mである。3層は淡黄灰色砂質土、4層は暗灰褐色砂質土、5層は淡黄褐色砂質土層である。いずれもほぼ水平に堆積しており、鉄分・マンガンの沈着が帯状に認められる。6・7層は出土遺物から中世に帰属すると考えられる。6層は淡緑灰色砂質土で、上面の標高3.35～3.65m、7層は淡青灰色粘質土で上面の標高3.4～3.55mである。7層は、古代溝の上にあたる部分ではたわんで厚く堆積している。8・9層は出土遺物から古代の時期が考えられ、それぞれa・bの2層に細分できる。8a層は淡橙褐色砂質土で洪沢砂と考えられる。8b層は淡青灰色粘質土で、耕作上であろう。9a層は淡黄褐色砂の、洪沢砂であり、9b層は暗緑灰色粘質土で耕作上であろう。8・9層は類似しており、近接した時期に繰り返し耕作を行ったことが考えられる。8層上面は標高3.25～3.5m、9層上面は標高3.15～3.4mで、全体として北に向かって傾斜している。10層は灰色系の土層で出土遺物から古墳時代の時期が考えられる。上面の標高2.9～3.25mである。10層の堆積厚は南東部では10cmと薄く、北側では20～25cmと厚くなり、厚く堆積した部分ではその特徴からa・b・cの3つに細分できる。10a・10c層は砂質で洪沢砂と考えられる。10b層は粘質が強く、耕作上であろう。11層は調査区の南側のみに確認された土層である。灰褐色粘質土である。12層も調査区の南側に部分的に確認された土層である。灰黄褐色砂質土で、洪沢砂と考えられる。11・12層は出土遺物が少ないものの、従来の土層関係から弥生時代の範疇に帰属すると考えられる。13層は暗褐色粘質土層で、いわゆる「黒色土」に相当する。出土遺物から突帯文～弥生時代前期と考えられる。調査区の南端では標高3.2m、北端では2.3mと北に次第に傾斜していき、粘性が強まる。

14層は暗黄褐色砂質土層で、出土遺物から縄文後期の時期が考えられる。調査区の南側にのみ確認された土層で、南東部では標高3.0m、南西部では標高2.4mで、確認された部分では東から西に傾斜している。15層は黄褐色粘質土で、南側では砂質が強く、北に向かうにつれ粘性が強まり、次第に青灰色を帯びてくる。上面の標高は南東部が最も高く2.7m、北西部で1.95mである。縄文時代後期と考えられ、基盤層である。



1. 造成土
2. 淡綠灰色砂質土 (近代耕作土)
3. 淡黃灰色砂質土 (近代耕作土)
4. 暗褐色砂質土 ("")
5. 淡黃褐色砂質土 ("")
6. 淡黃褐色砂質土 (中世)
7. 淡青灰色粘質土 ("")
- 8a. 淡綠褐色砂 (古代洪水砂)
- 8b. 淡青灰色粘質土 (古代耕作土)
- 9a. 淡黃褐色砂 (古代洪水砂)
- 9b. 暗綠灰色粘質土 (古代耕作土)
- 10a. 灰色砂 (古墳時代洪水砂)
- 10b. 暗褐色粘質土 (古墳時代耕作土)
- 10c. 暗灰砂質土
11. 灰褐色粘質土 (弥生時代)
12. 灰黃褐色砂質土 (弥生時代洪水砂)
13. 黑褐色粘質土 (弥生時代前期)
14. 暗黃褐色粘質土 (彌文時代後期)
15. 明黃褐色粘質土 (彌文時代後期・基盤層)

- a. -f. 造積埋土
- a. 中段楚跡
- b. 8層上面溝
- c. 河道1
- d. 河道2
- e. 河道3
- f. 溝12
- g. 河道4

土層断面位置図 (縮尺1/800)

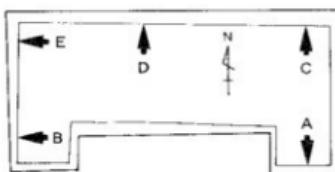


図2 土層断面図 (縮尺1/40)

(2) 地形

本地点は微高地部分から低湿地部分に向かう傾斜地点にあたる。西側隣接地（第9次調査地点）で確認された縄文時代の河道は本地点の中には入ってこず、本地点よりも北側に流入しているものと考えられる。この河道に向けて全体として北に傾斜した地形で、「黒色土」が発達する比較的安定した地点と言える。また南側隣接地（第17次調査地点）で縄文時代後期の遺構を多数確認した微高地部分は本調査区では南東を中心とした一角にかかるのみであった。

縄文時代～弥生時代前期にかけては、調査区の北側に複数の河道が流れていたことが確認された。これらの河道の堆積作用により、低地部分は次第に埋められていく。15層上面での南北の高低差は70～80cmであったが、弥生時代前期段階の河道2が埋まった時点での高低差は50～60cmとなる。その後もさらに低地部分への洪水砂の堆積が進み、古墳時代後期段階（10層）の整地では、高低差は30cm程度になっている。古代段階には調査区中央を東西に流れる大溝が作られ、これをはさんで南北で高低差はあるものの、南、北それぞれではほとんど平坦化した地形となり、以後、各時期に造成を繰り返しながら近代まで至るのである。

(3) 検出した遺構（図3、4）

縄文時代の遺構（15層）

いすれも調査区の南東部で溝1条、土坑2基、ビット50数基、河道2条を検出した。溝の南端は第17次調査地点で検出された溝へ続くものと考えられる。土坑のうち調査区北側で検出された土坑11は、出土遺物から突帯文時期に帰属するものと考えられる。また河道3・4はいすれも上面がその後の河道によって削られているため、底部分を検出するにとどまっている。出土遺物には多量の縄文時代後期・突帯文時期・弥生時代前期の土器・石器を含んでおり、弥生時代前期の可能性が考えられる。

弥生時代の遺構（11～13層）

検出した遺構は水田畦畔1面（12層）、溝2条（11・12層）、河道2条（13層）である。

調査区北側で河道2を検出した。河道3の埋没後、やや南にふる形で河道2が形成されている。新旧2回の流路が認められる。河道2の上面は古代溝によって削平されているため、掘り込み面は確定できないが、出土遺物から弥生時代前期の時期と考えられる。その後、河道2が埋まった後に、溝12が掘削される。溝12の時期は出土遺物から弥生時代中期と考えられる。さらにその後河道1が厚く堆積している。河道1の時期としては出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

12層上面では、調査区南西部の一部で水田畦畔を検出した。ここでは他の地点に比べて12層の層厚がやや厚く残っており、灰黄褐色を呈する洪水砂に覆われた部分で、畦畔を検出した。

11層上面では調査区南西部で溝1条を検出した。出土遺物は少なく、上層関係などから弥生

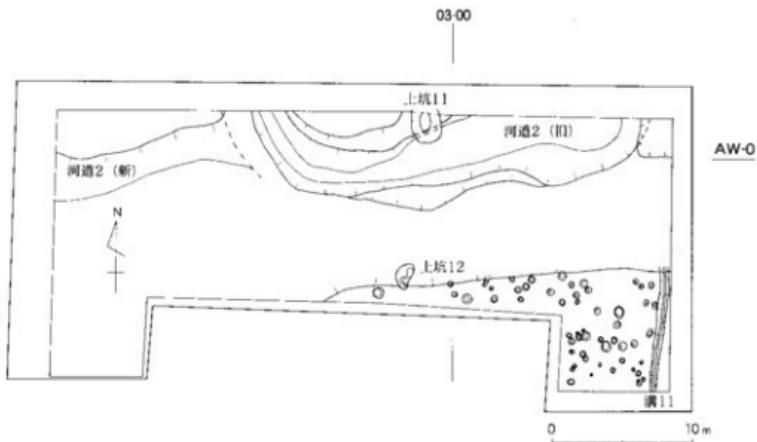


図3 繩文～弥生時代遺構平面図 (縮尺1/400)

時代後期須と考えられる。

古墳時代の遺構（10層）

10b層上面で水田畔群、溝2条を検出した。畔群は調査区北西部で南北方向、北側中央部及び南東部で東西方向のものを確認した。北西部では取水口と考えられる遺構とそれに関連する溝を検出している。

また調査区の南側では溝9を検出した。幅約1.0m、深さ0.2～0.3mで、ほぼ東西方向に走っている。この溝を挟んで南側では標高3.2m程、北側では3.0m程度で平坦かした地形となっており若干の段差が認められる。畔群・溝とも古墳時代後期に帰属するものと考えられる。

古代の遺構（8・9層）

溝・水田畔群を検出した。溝は9層上面で確認したもので、溝6・7が重複している。幅9～11m、深さ1.0mを測る。古段階の溝7には北側に小さい溝が付随している。新段階の溝6では木杭を組み合わせた堰状遺構が検出された。木堤は水流に直交するように、5、6本の杭を打ち込み、横木を掛けたもので、西に向かって倒れている。ちょうど堰のある部分で東から来た流れが北側に湾曲していることがわかり、取水などの何らかの理由で堰を設けたものと考えられる。遺物は土器・木製品等が多量に検出された。

水田畔群は9b層上面、8b層上面で、溝に沿うように東西方向のものを検出した。

中世の遺構（6・7層）

検出した遺構は溝1条、溝に伴う水口状遺構2、畔群である。溝は東西方向で、10層で検出

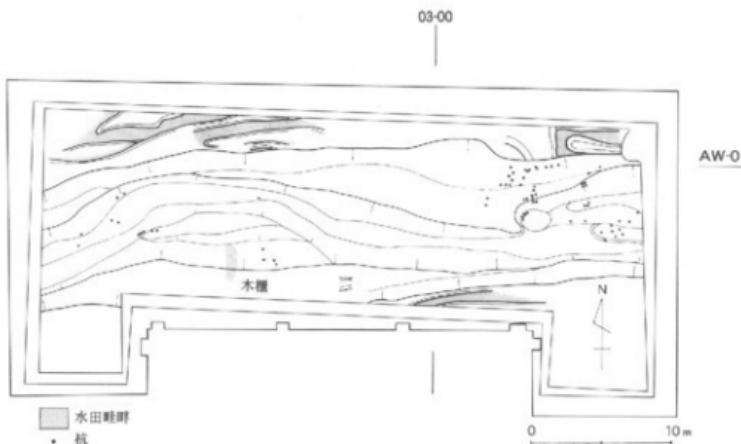


図4 古代検出遺構平面図 (縮尺1/400)

した溝9のやや北側にあたる。幅0.7~1.0m、深さ0.4m前後で、東側で水口状遺構2基が付随している。7層上面では溝の北部で広範囲に南北方向の鋸痕を検出した。また溝の南部では溝に沿うように東西方向の駐畔を確認した。

c. まとめ

本調査地点は微高地部分から谷部への傾斜地点にあたる。今回の調査ではこのような微高地と低地との間の遺跡の様子を、縄文後期以降、近代・現代に至るまでの地形の変遷、土地利用の変遷を中心につかむことができた。当初、周辺のこれまでの調査成果から縄文時代後期の河道の存在が想定されており、それに伴った貯蔵穴等の遺構の存在が期待された。しかし、この河道は実際には調査区内には流入しておらず、期待された遺構も存在しなかった。「存在しない」事実の確認も空白地帯があることを確認したという点で重要と言えよう。

縄文時代では第17次調査地点との関係が注目される。第17次調査地点では縄文時代後期の住居址を含む多数の遺構・遺物を検出している。また黒色土中からも多量の縄文時代後期の土器が出土している。本調査では、この縄文時代後期の黒色土と、従来のいわゆる「黒色土」との関係を確認することも一つの主眼であった。今回の調査区内では、「黒色土」にあたる13層からは従来通り突堤文期～弥生時代前期の遺物が出土している。ただし黒色土下面および14・15層からは縄文時代後期の土器が出土しており、今後、出土遺物の詳細な分析を進めて、黒色土の形成についても検討する必要がある。今回の調査終了後には土壤のサンプリングを行い、様々な科学分析を実施している。その結果も加えて今後分析を進めていきたい。

一方、微高地周辺の土地利用をつかむ情報はさらに蓄積が進んだと言えよう。縄文時代の自然河道へ向かう低地が河川の堆積作用が次第に進むことによって、次第に平地へと変遷する状況が時代毎に把握できた。今回の調査区では中央部を古代溝によって大きく削平されていることから、古代以前の水田関連遺構は部分的にしか確認できなかったが、弥生時代以降繰り返し水田を經營してきたことは窺える。また古代溝は第3、6・7、9、12次調査の各地点でも確認されている、条里の坪境溝にあたる大規模な溝である。

津島岡人遺跡の調査は今回で22次にわたり、試掘調査等も含めるとかなり広範囲にわたって遺跡の内容が判明してきている。特に東北隅地域においては、調査頻度が高く、北側に立地する朝寝鼻遺跡の存在も含めて縄文時代後期～弥生時代にかけての集落構造を考える上で貴重な情報が蓄積されつつある。なお現在資料整理途上であるため、本報告は暫定的なものである。

(岩崎)

(2) 津島岡大遺跡第23次調査（総合研究棟新営工事に伴う発掘調査 津島北 AZ 15・BA 15区）

a. 調査に至る経緯

当調査地点は岡山大学津島北地区に所存する文・法・経済学部棟の南に位置する（図5）。この地点には旧日本陸軍の兵舎を利用した第四喫茶棟があったが、既に取り壊され更地となっていた。また、調査区南半は駐車場として利用されていた。今回、総合研究棟が新営されることになり、1999年10月25、26日に試掘調査を実施し、調査員1名がこれを担当した（詳細は第1章第3節参照）。

試掘調査の結果、津島北地区南東の地域にも微高地が広がり、遺構が分布していることが判明した。また、調査区内で微高地と河道が確認されており、河道の利用状況も明らかにしうることが予測された。

b. 調査の経過

以上のような試掘調査の成果をうけて、2000年1月27日から造成土の掘削を開始した。機械による造成土掘削は4日で終了し、2000年2月3日から本格的な発掘調査を調査員4名が担当して実施し、1999年度の発掘調査は3月30日で終了している。なお、発掘調査は2000年度も4

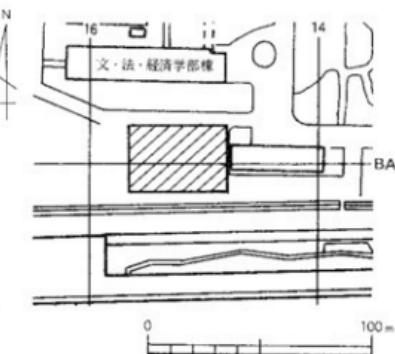


図5 調査地点の位置 (縮尺1/2500)

月3日から継続して実施しているが、2000年度の成果については次年度の年報で報告する。

c. 調査の成果

① 層序と地形（図6）

現地表面の標高は約4.3mであり、地表下約1.2~1.3mが近代以降の造成土（1層）である。2層は暗青灰色を呈する明治期の耕土である。3~5層は近世の耕土と考えられる明黄褐色砂質土、6~8層は中世の水田層と考えられる灰褐色粘質土である。9、10層は暗灰褐色粘質土であり、弥生時代後期~古代の水田層と考えられる。11層は暗褐色弱粘質土である。弥生時代中期段階に埋没した河道の上層にのみ堆積しており、河道が埋没した後、湿地状を呈していたものと考えられる。12層は弥生時代前期の暗褐色土層である。12層は調査区南東の微高地に堆積している。13層は黄褐色砂質土である。調査区北西の微高地を形成している。14層は灰褐色砂礫層であり、地山の礫層である。

本調査区では、中央部に北東から南西に流れる河道が通る。河道の両岸には微高地が広がるが、西側の微高地は津島地区で縄文時代後期の基盤層と認識している黄褐色砂質土、東側の微高地は弥生時代前期の黒色土層から形成されている。河道が埋没した後は、河道の中心部に向

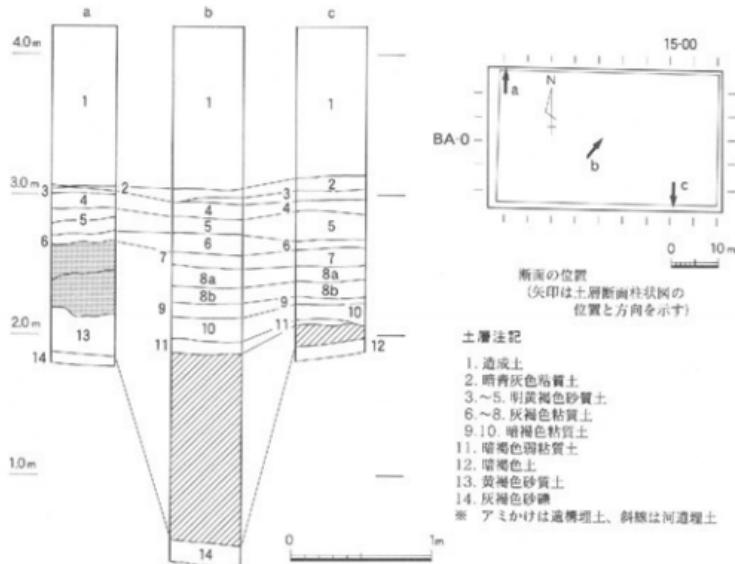


図6 土層断面柱状模式図(縮尺1/50)と断面の位置

かう若干の傾斜が認められるものの、徐々に解消され、堆積状況から中世段階にはほぼ水平な面を形成していることがうかがえる。

② 遺構・遺物（図7）

調査によって確認した遺構には、明治から近世の耕地、堆積の薄い微高地では古墳時代前期のピット群、弥生時代後期～古墳時代前期の溝群などがある。

近代では南北方向に延びる畠、近世では鋤溝と考えられる浅い耕作痕を確認した。また微高地では古墳時代前期のピット群を検出した。このうち、1基のピットでは2個体の小形丸底窓と打ち欠いた円窓を埋納していた。丸底窓は一つは口縁部を上に、もう一つは口縁部を下に向けて置かれていた。弥生時代後期～古墳時代前期の溝群は4条確

認しているが、いずれも微高地の縁辺に並行して掘削されている。

微高地の溝群の調査を終えたところで1999年度の調査は終了した。調査は2000年度も継続しており、弥生時代前期の河道、堰、溝等の調査をしている。2000年度の調査の詳細は次号で報告する。

d. 1999年度調査のまとめ

1999年度は近世、中世の遺構、微高地で弥生時代後期、古墳時代前期の遺構の調査を行った。今回の調査地点は津島北地区のなかではこれまでとんど調査が行われてこなかった地点であり、本調査の結果、津島北地区南東の地域にも微高地が広がり、遺構が分布していることを明らかにすることができた。なお、調査は2000年度も継続しており、本報告の内容は暫定的なものであることを断っておきたい。

（野崎）

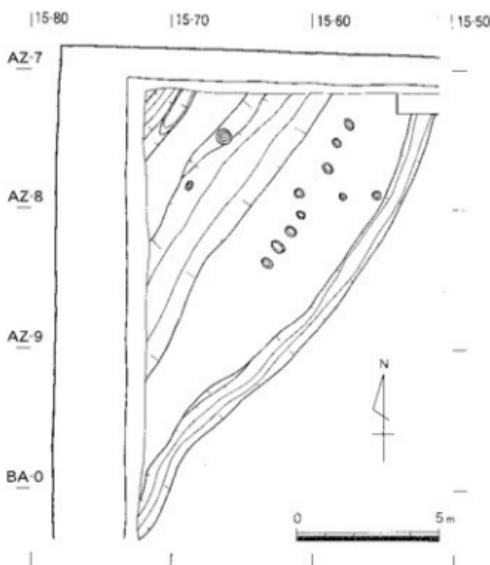


図7 弥生時代～古墳時代の遺構 (縮尺1/200)

2 鹿田地区

今年度、鹿田地区では第9～11次調査を実施した。9次調査は前年度からの継続であり、11次調査は9次調査の外縁部分の追加調査である。各調査地点は図8のとおりである。これらの地点は鹿田地区の南西部に近接しており、特に9・11次調査では合計4600m²もの調査面積となり、主に弥生時代および中世段階の状況のより一層の理解が進んだ。

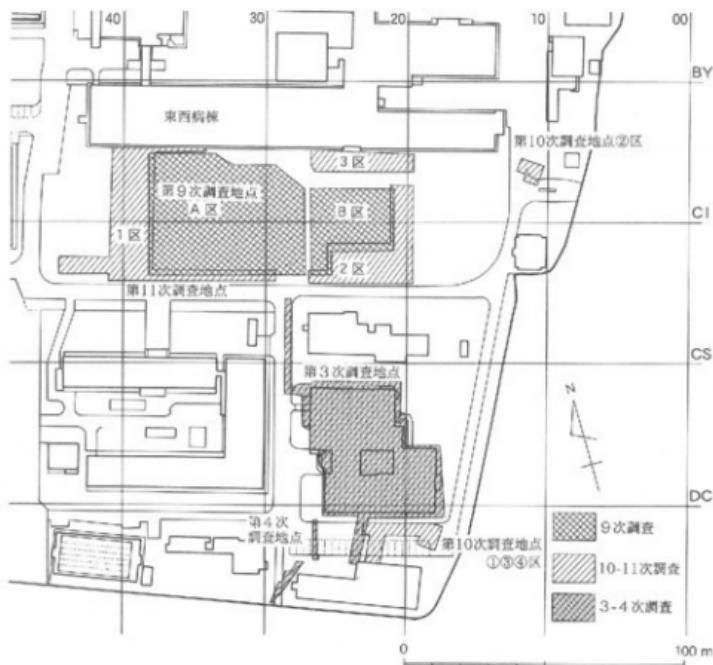


図8 鹿田遺跡第9～11次調査地点位置図 (縮尺1/2,000)

(1) 鹿田遺跡第9次調査・鹿田遺跡第11次調査〈医学部附属病院病棟新館に伴う発掘調査 鹿田 CD～CM 19～42区〉

第9次調査は1998年度からの継続調査である。前年度分については「構内遺跡調査研究年報16」に掲載済みであり、ここでは、古代以前の調査状況について概要を述べる。また鹿田遺跡第11次調査とは隣接しているため、検出遺構図については両調査地点を併せて掲載することとする(図10・11)。さらに両調査地点の土層堆積状況については、第11次調査地点で、改めて確

認した点を加えて、両地点の共通見解として以下に記述する（図9）。

a. 調査にいたる経緯と経過

第9次調査

第9次調査については年報16に掲載済みであるため、ここでは省略する。

第11次調査

医学部附属病院病棟新営工事計画の変更に伴い、前年度から実施された第9次調査の外縁部分に拡大する形で、今回の発掘調査が行われた。

調査は1999年8月19日から12月21日の約4ヶ月にわたって行い、9月までは調査員4名、10月からは調査員6名の体制でこれにあたった。調査面積は2001.8m²である。

b. 調査の概要

① 層序（図9）

1層は近代以降の造成土であり、現地表面（標高3.5m前後）から約1.2m下まで堆積している。2層は淡灰褐色の粘質土層であり、近世～近代の耕作土と考えられる。3層は灰褐色～緑灰褐色砂質土で中世末～近世の遺物や炭化粒を含む。4層は灰黄褐色の砂質土で、中世の包含層である。本層は2層に細分することができる。4a層は灰黄褐色砂質土、4b層は暗灰黄褐色砂質土であり、両層とも縮まりのある土層である。5層は橙灰褐色～暗灰褐色土でやや砂質を呈する。鉄分とマンガンを多く含む上層であり、4層と同じく中世の包含層と考えられる。6層は暗緑灰色～暗灰褐色を呈する上層であり、2層に細分が可能である。6a層は暗緑灰色～茶褐色土でやや砂質を呈する。白色・淡黄色微砂がラミナ状あるいはブロック状に堆積する層であり、洪水砂としての性格が考えられる。6b層は暗緑灰色～淡灰褐色土でやや粘質を呈する上層であり、一部では淡黄白色微砂がラミナ状に堆積している。この6b層上面では11次調査区の一部において水田畦畔を検出している。7層は灰黄色～暗黄灰褐色土であり、一部では3層に細分が可能である。7a層は暗黄灰褐色土でやや砂質を呈する。淡黄色微砂のブロックを多く含み、暗灰色粘土ブロックも帶状にみられる。7b層は暗黄灰色土でやや砂質を呈する。淡黄褐色微砂がラミナ状に堆積しており、鉄分や炭化粒を含む。7c層は淡橙灰褐色土でやや粘質を呈する十層であり、淡灰色粘土ブロックが少量みられる。この7c層も水田畦畔を形成している可能性のある十層であり、7b層は耕作面に堆積した十層、7a層は洪水中関連して堆積した十層と考えられる。本層の時期については明確にしがたい。8層は暗緑灰色～暗橙灰褐色を呈する上層であり、3層に細分が可能である。8a層は暗橙灰褐色土でやや砂質を呈する。暗灰色粘土ブロック、緑灰色微砂ブロックが少量みられ、鉄分を多く含む。7a層と同じく洪水砂としての性格が考えられる。8b層は暗橙灰色土で淡黄灰色微砂のブロッ

クが多くみられ、鉄分・炭化粒を少量含む。8c層は暗緑灰褐色～暗灰褐色土でやや粘質を呈する。白色粘土粒、淡橙色粘土ブロックがみられ、鉄分を含む。弥生時代の水田畦畔を形成している層である。9層は橙灰色～淡橙褐色粘質土であり、鉄分を多く含む。色調や砂の含有量に差があり、場所によってはさらに細分が可能である。いわゆる地山層であり、弥生時代の大畦畔および畦畔関連の溝等が確認された層である。以下、10層は暗緑褐色粘質土、11層は青灰色粘質土であり、ともに無遺物層である。

② 検出した遺機・遺物

第9次調查

中世～近代の検出遺構については「年報16」に掲載済みであるため、ここでは省略する。古代以前の検出遺構としては、6層上面の溝群と9層上面で検出した水田跡群がある。

6層検出構

6層上面では、幅0.3~0.4m、深さ10cm程度の浅い溝を多数検出した。これらの溝はほぼ東西方向、南北方向に合致するものであり、耕作に関係するものと考えられる。出土遺物は少なく、時期については十層関係等から古代の範疇で考えたい。

9層検出構造(図10 写真1)

9層は弥生時代後期墳に相当する十層である。この層の上面で水出畦群を検出した。A区の北西から南東方向を主軸とする大畦群と、これに直交する方向の小畦群と小溝が検出された。この方向は本来の自然地形を利用したものと考えられる。畦群の交差地点には土器を中心して廃棄した遺構があり、水田に關係する何らかの祭祀が行われたのであろう。

弥生時代の水田址の発見は今回が初めてであり、これまでの調査で判明している集落域と合わせて、当時の土地利用形態や景観復元の貴重な資料を得ることができた。

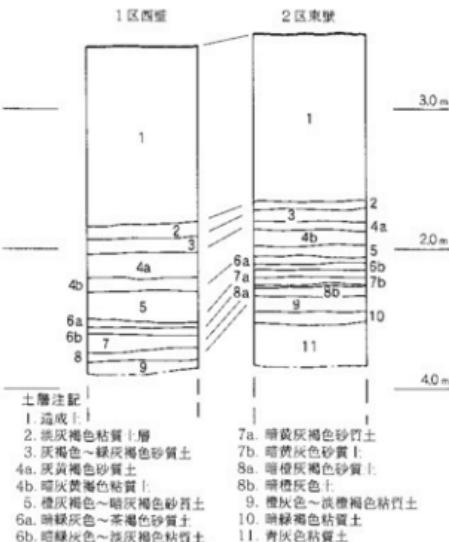


図9 農田11次調査地点土壌断面図(図版1/10)

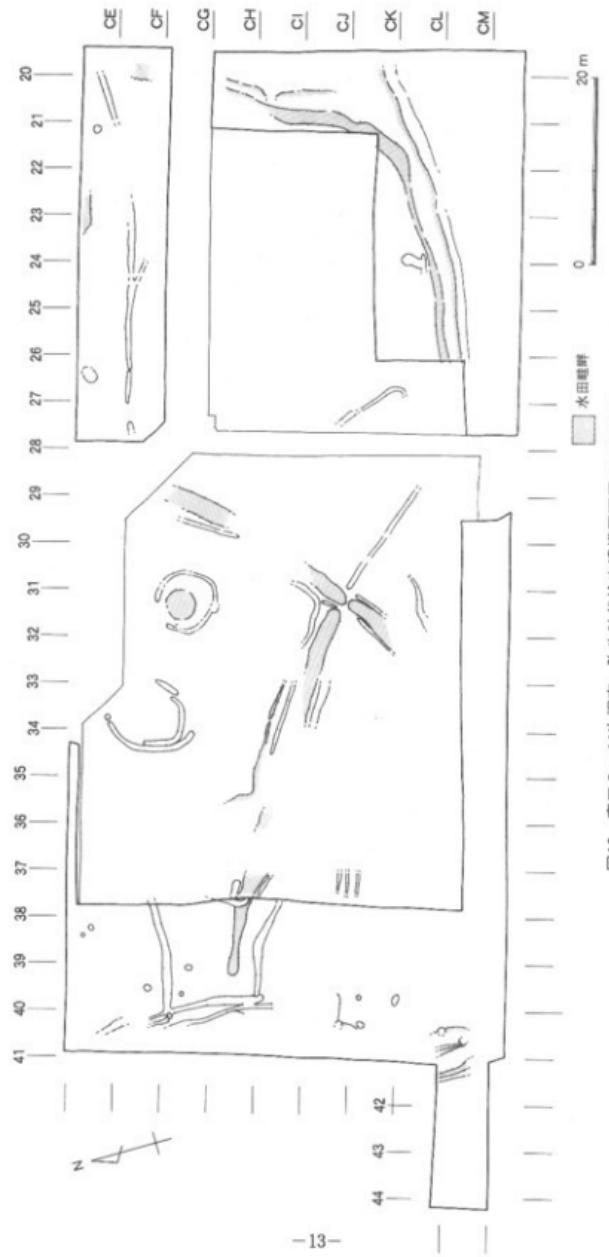


図10 磨田9・11次調査 弓生時代検出遺構平面図 (縮尺1/600)

第11次調査

今回の調査区は9次調査区の外縁部分にあたり、本調査では調査地点の中央を走る共同溝を境に西側を1区、南東側を2区、北東側を3区とした（図8）。9次調査の成果から、古代～近世の溝・柱穴群、弥生時代の水田畦畔等の存在が予想された。検出した主な遺構と遺物は次の通りである。

2. 3層検出遺構

近世以降に相当する層である。1区および2区・3区を南北に走る大溝（1区 SD 2, 2区・3区 SD 1）を検出した。これらの大溝は鹿田遺跡第9次調査（以下、鹿田9次）で検出した大溝の延長部分にあたる。また1区と2区の南端付近では東西方向の溝を検出した（1区 SD 3, 2区 SD 2）。この溝は杭列を伴っており、杭間に板状の横木を設置している状況（おそらく護岸用の設備と考えられる）が一部において確認できた。この他、2区の南半部で土坑数基を検出している。

4, 5層検出遺構（図11）

中世（平安時代末～室町時代）に相当する層である。4層では北側を中心に遺構密度が高く、各調査区で溝や柱穴群、井戸等を検出している。1区は、調査区の中央付近を東西方向に横切る大溝（1区 SD 10：鹿田9次A区 SD 23）を境に、北と南で様相が異なる。北半部では中・小規模の溝が南北方向を中心にして数条みられ、北側を中心に柱穴群のまとまりを認めることができる。この他、井戸や土坑を数基検出している。一方南半部では遺構が希薄であり、東西方向の大溝（1区 SD 4）以外では、小規模の溝や井戸、土坑が少數みられる程度である。なお、このSD 4の底付近で墨書の痕跡を残す木簡が出土している。このように北と南で様相が異なるのは2区と3区についても言えることである。2区では東西方向と南北方向に数条の大溝が走るのに対し、3区では中・小規模の溝数条と大小の井戸・土坑数基、および北東周辺に集中する柱穴群の存在が確認できた。これに対し、5層では全体的に遺構が希薄であり、小規模の溝や柱穴がわずかにみられる程度であるが、この時期に1区南半部では大規模な遺構（1区 SD 8）が営まれている。本遺構は9次調査で「入り江状の遺構」としていた遺構（鹿田9次A区 SD 24）の延長部分にあたり、その結果本遺構は1辺約25mの方形に近い遺構となるこ

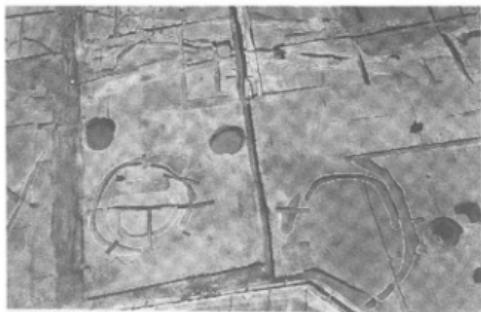


写真1 弥生時代検出水田畦畔（北より）

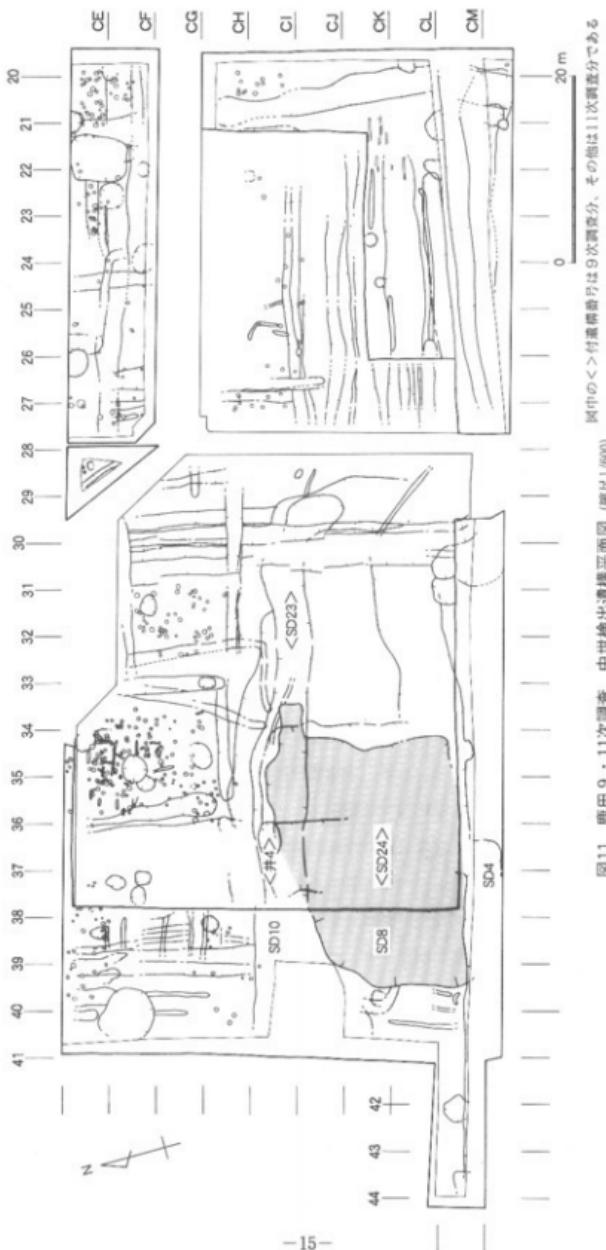


図11 鹿田9・11次調査 中世後出遺構平面図 (縮尺1/600)

とが判明した。

6、7層検出遺構

6層では1区を中心に、小規模の溝が南北方向を中心に10数条みられた。これらの溝のほとんどは、上層で検出した遺構の掘り戻しである可能性が高いものであろう。また、各調査区では一部において6層の水田畔群を検出することができたが、出土遺物が少ないため、詳細は不明である。

8、9層検出遺構（図8）

弥生時代に相当する層である。2区を中心に各調査区において大・中規模の畦畔を検出した。また、これらの畦畔にとりつく小規模の溝や導水施設状の遺構を確認することができた。鹿田9次の調査成果とも考えあわせると、北西—南東方向およびそれと直交する方向を軸に水田畔群が広がっていたのであろう。

c. 総括

11次調査では9次調査で確認された遺構の存続状況およびその性格光明に焦点が絞られた。その結果、鹿田9次の調査成果を再確認、あるいは修正すると同時に、新たな知見も得ることができた。

鹿田9次および11次調査で明らかとなった中世相当期の遺構のあり方は、両調査地点の北端部に生活領域の中心が存在することを示している。一方南側については東西および南北方向に大溝が掘削されている。後の時代にも同一の場所で継続的に大溝が掘削・使用されており、「居住領域」や「生産領域」といった集落内空間が、こうした大溝によって整然と区画されていたことを窺わせる。また、9次調査において「入り江状の遺構」としていた遺構の範囲がほぼ確定できたことも成果の一つである。本遺構は鹿田遺跡が最盛期を迎える12世紀中頃～14世紀（鎌倉～室町時代）よりも前にすでに掘削されており、鹿田遺跡の土地利用のあり方を考える上で重要な資料といえよう。本遺構の性格については不明な点が多いが、「溜池」のようなものとして機能していた可能性が一つには考えられる。

さらに、9次調査では不明な点が多くかった6・7層相当期の状況についても、今回の調査で水田畔群の一部を検出することができた。このことは弥生時代に当地点が生産領域として機能していたことを示しており、重要な成果といえよう。

以上が今回の調査成果であるが、層位および各遺構の帰属時期については出土遺物の詳細な検討を待たねばならず、上述の内容はあくまで暫定的なものである。
(喜田・岩崎)

(2) 鹿田遺跡第10次調査（医学部共同溝敷設に伴う発掘調査 鹿田C D・CE 10～12, DD～DF 16～22区）

a. 調査にいたる経緯

鹿田地区の基幹整備に伴い、医療技術短期大学部周辺において共同溝の設置が計画された。医療短期大学部では1986年度から1987年度にかけて実施した校舎新営に伴う発掘調査（鹿田遺跡第3・4次調査）において古代から中世にわたる多くの遺構が検出されている。とくに今回の工事予定地の西端部分に隣接する地点では、古代の河道に掛けられた橋脚遺構が良好に検出されており、重要な遺構・遺物の存在が予想されることから、発掘調査を実施することになった。

b. 調査の経過

共同溝設置予定地のうち、①区（発進立坑31.4m²）、②区（到達立坑・現場打ち共同溝40.2m²）、③区（ヒューム管・高圧マンホール45.7m²）、④区（PCボックスカルバート107.2m²）の各部のみが遺物包含層の深度にまで到達すると予測され、工事の手順との関係から、①、②、③、④の順に日程を分けて発掘調査を行った。調査期間は①1999年5月7日から20日、②1999年6月21日～7月6日、③1999年9月6日～9月20日、④1999年9月26日～10月14日で、調査員1名が担当した。

c. 調査の成果

①、③、④区は互いに隣接しているが、②区は医療短期大学部校舎を挟んで北に離れた位置にあるため、旧地形や層序の様相も異なる。従って、①・③・④区と②区を分けて報告する。

① 層序

①・③・④区

現地表面から1.4mは近代以降の造成土（1層）である。2層は青灰色の砂質土である。3層は暗灰色の粘質土で、暗灰褐色粘質土のブロックを多く含む。2、3層は近代の耕作土であると考えられる。4層は淡灰褐色の砂質土で、鉄分とマンガンを多く含む。5層は灰褐色の砂質土で、鉄分とマンガンを多く含む。4、5層はいずれも近世の耕作土と考えられる。6層は灰褐色の砂質土で、少量の鉄分と多量のマンガンを含む。中世の上器片を含むことから、中世の層と考えられる。7層は灰黄褐色の砂質土で、鉄分とマンガンを多く含む。8層は灰褐色の砂質土で、少量の鉄分とマンガンを含む。9層は明灰色の粘質土で、ラミナ状に砂を含む。10層は暗灰色の粘質土で、粘性が強い。7層以下は鹿田遺跡の基本層序とは対応せず、鉄分を多く含むことからも、古代の河道の埋土と考えられる。

②区

現地表面から1mが近世の造成土（1層）である。2層は淡灰色の砂質土で、小蝶を多く含む。近代の層に比定できる。3層は灰褐色の砂質土で、鉄分を多く含む。4層は暗灰褐色の砂質土で、マンガンを多く含む。3～4層は近世の層と考えられる。5層は灰褐色の砂質土で、

マンガンを多く含む。5、6層はいずれも中世の土器を含むことから、中世の層と考えられる。7層は暗褐色の粘質土で、非常にしまりがよく、多量の鉄分と少量のマンガンを含む。いずれも少量の弥生土器を含む。9層は灰黄褐色の粘質土で、鉄分を多く含む。遺物は出土していない。9層は南に向かってレベルが低くなっている。8層も同様に南に傾斜している。8層の低い部分にさらに7層が堆積している。

② 概要

①③④区

医療短期大学部校舎南側にあたる①③④区では、中世の遺構は確認できなかった。先の校舎新営に伴う調査でも、今回の調査区に近い範囲では中世の遺構が希薄であり、校舎の北側に遺構が集中する様相が追認できた。

一方古代の遺構については、③区及び④区西端で検出した杭群がある（写真2）。西に隣接する医療短期大学部校舎南共同溝部分（鹿田遺跡第3次調査C地区）では、大型の杭を打ち込んだ橋脚と思われる遺構を検出しており、今回の調査で検出した杭群も、それに伴うものと考えられる。

②区

②区で検出した遺構としては、まず近世の溝1条が挙げられる。溝は到達立坑部分の中央付

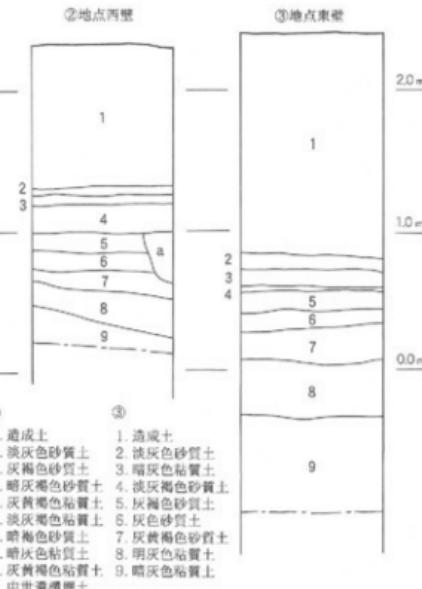


図12 鹿田10次調査土層断面図（縮尺1/40）



写真2 ③区杭群検出状況

近を東西方向に流れる。多量の陶磁器や瓦が出土し、また、溝の両肩に1m程度の間隔をあけて杭が打ち込まれていた。護岸を目的とする施設と考えられよう。さらに、弥生時代の遺構としては、現場打ち共同溝部分でピットを1基検出した。ピットの中からは弥生時代後期後半の壺形土器が1点、つぶれた状態で出土しているが、復元すればほぼ完形になると考えられる。

d. まとめ

今回の調査は、調査面積が小さいにも関わらず、いくつかの成果が挙げられた。まず、①③④区では、第3次調査に引き続いて古代の大規模な河道を確認し、さらに橋脚に関連する杭列を検出することができた。また②区では、調査区の北に向かって微高地が形成され、この付近まで弥生時代後期の遺構が広がっている可能性が指摘できた。

以上が今回の調査の成果である。なお、本調査は現在整理中であり、上述の内容は暫定的なものであることを断っておく。

(豊島)

第3節 試掘調査

本年度は、津島地区において2件の試掘調査を実施した。以下に概要を記す。

1 津島地区

(1) 津島地区総合研究棟校舎新営 に伴う試掘調査

a. 調査に至る経緯

当調査地点は津島北地区に所在する文・法・経済学部2号館の南に位置する総合研究棟建設予定地とされる地点である。この地点には旧日本陸軍の旧兵舎を利用した第四喫茶の建物があり、その南は駐車場として利用されていた。しかし既に第四喫茶は取り壊されており、試掘時点では更地となっていた。

さて、総合研究棟建設予定地周辺ではこれまで1981、82年に岡山市教育委員会によって合併処理槽埋設、校舎新営の際に工事立会あるいは試掘調査を行っているが、遺構・遺物等は確認されていない。また、それ以後に行われた立会調査も掘削深度が大きいものは無く、判断材料となるデータは皆無という状況である。そこで今回試掘調査を行ってデータを得ることとした。

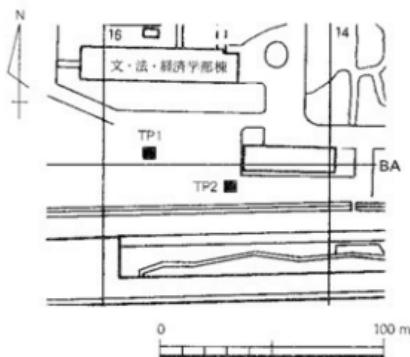


図13 調査地点の位置 (縮尺1/250)

調査は建設予定範囲の北西と南東の2ヶ所に試掘坑を設けて行った(図13)。試掘坑は北西をTP1(2×2m), 南東をTP2(2×2m)とした。調査は1999年10月25, 26日に実施し、調査員1名がこれを担当した。

b. 調査の成果(図14)

① TP1

TP1は建設予定地の北西に設定した。現地表面の標高は約4mであり、地表下約0.8mが近代以降の造成土である。以下、上層から順に上層説明を行う。2層は暗青灰色を呈する明治期の耕土、3~5層は近世の耕土と考えられる。3, 4層は明茶褐色の砂質土であり、上面においては鉄分の沈着が顕著にみられる。5層は灰茶褐色の弱い粘性を帯びた土である。この層も鉄分の沈着が著しい。6層は灰褐色粘質土である。7層は明灰褐色粘質土である。粘性が強い。津島地区の他地点の堆積状況を参考にすれば中世段階の水田層と考えられる。8層も明灰白色の粘質土である。上面には鉄分の沈着が著しい。この層では壁面で上器片を採集すること

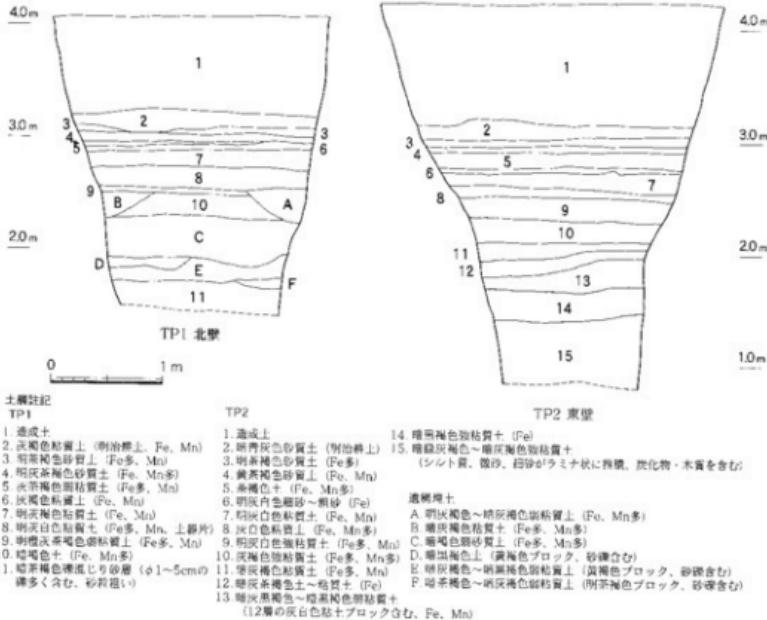


図14 土層断面図 (縮尺1/50)

ができた。ただし、細片であり、時期を比定するには至らなかった。9層は明橙灰茶褐色弱粘質土である。上面には鉄分の沈着が著しく、マンガン粒を多く含む層である。この層では遺構を確認することができた。10層は暗褐色土である。津島地区で「黒色土」と呼んでいる繩文時代晚期から弥生時代前期の鍵層にあたる可能性もある。この層でも土器片を採集することができたが、時期を特定するには至らなかった。11層は暗茶褐色の礫混じり砂層である。径が1～5cm程度の礫を多く含み、稀に長10～15cmの礫を含む。砂の粒子が粗く、河道が通っていた可能性も考えられる。この試掘坑では繩文時代後期の基盤層と考えられる黄褐色砂質土層は確認されなかった。

② TP 2

TP 2は建設予定地の南東に設定した。現地表面の標高は約4.2mであり、地表下約1mまでが近代以降の造成土である。2層は暗青灰色砂質土で、明治期の耕土である。3～5層は近世の耕土である。3、4層は上面に鉄分の沈着が著しい。6～9層は中世の耕土と考えられる。6層は明灰白色粗砂であり、洪水砂と考えられる。7～9層はいずれも灰白色を呈する粘質土であり、とりわけ9層は粘性が非常に強い。10、11層は灰褐色を呈する粘質土であり、古墳時代～古代の堆積層と考えられる。この11層の上面までは各層ともほぼ水平に堆積し、地形は平坦化されるが、12層以下は下位の地形の影響を受けている。12層は暗灰茶褐色粘質土である。13層は暗灰黑褐色粘質土である。「黒色土」と呼称している鍵層に色調が似るので、弥生前期の層とも考えられるが、断定する材料は得られなかった。14、15層は河道埋土と考えられる層である。14層は暗黒褐色強粘質土である。15層は暗緑灰褐色～暗灰褐色強粘質土である。シルト質土、非常に細粒の砂粒、微砂、細砂がラミナ状に堆積する。層中に炭化物を含む。また、この調査区の掘削底面では木質層を確認することができた。

c. まとめ

今回の試掘調査はこれまでほとんど調査のデータの無い地点で行ったものであり、津島北地区南西の十層の堆積状態や埋蔵文化財の包蔵状況を知るうえで重要な成果をあげることができた。TP 1では「黒色土」と考えられる層が標高2.2m、明治耕土上面からは約0.9m下位の位置で確認された。津島地区の他地点の成果をあわせて考えれば、「黒色土」の確認された深度は浅く、予定地の北西は微高地ないし微高地に近い地点であることが考えられる。また、TP 2は「黒色土」に似た色調の13層以下の堆積が、河道の埋土と考えられるラミナ状の堆積であり、調査区南東には河道が通ることが予想される。

今回の試掘調査の結果、津島北地区南東の地域にも微高地が広がり、遺構が分布していることが判明した。また、調査区内で微高地と河道が確認されており、河道の利用状況も明らかにしうる可能性もある。いずれにせよ発掘調査でこの地域の土地利用の状況を確認する必要があ

ろう。

(野崎)

(2) 工学部電波暗室新館に伴う試掘調査

a. 調査の経過

調査地点は工学部機械工学科実験棟の東側、工学部ゴミ収集場の西側にあたる。

1999年度にこの地点に電波暗室の建設が予定された。建物自体はプレハブ仮設であったが、面積143m²と100m²を超えるものであるため、建設予定地内に1カ所の試掘坑を設け、地形の確認を行うこととした。調査は2000年2月23日を行い、調査員1名が担当した。

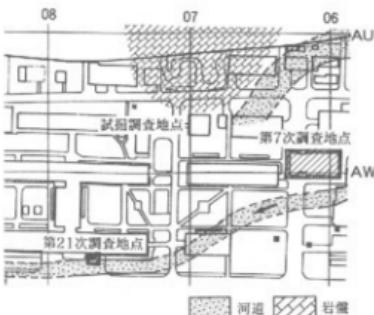


図15 工学部電波暗室予定地試堀調査地 (縮尺1/5,000)

b. 調査の概要

まず重機によって2.5m四方の試掘坑を掘削し、その後断面観察と記録を行った。厚さ0.2m程の現表土(1層)の下は試掘坑北壁では岩盤(3層)である。南壁では、現表土の下に0.5mの高さの石垣(2層)が作られており、その直下が岩盤であった。

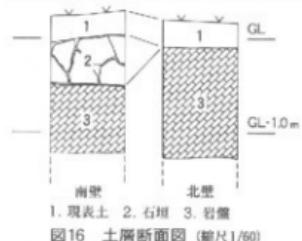


図16 土層断面図 (縮尺1/60)

c.まとめ

調査地点の北東約30mの地点には、半田山山塊から南に伸びる丘陵先端の岩盤塊が保存されており、調査地点一帯までこの岩盤が続いていることが確認された。近年の調査成果から津島地区東北隅地域を中心に旧地形の復元が進みつつあり、今回の試掘調査結果によても、有益な資料の蓄積が進んだと言えよう。

(岩崎)

第4節 立会調査

(1) 津島地区 (図23 表1)

1999年度における津島地区的立会調査は事業別にみると19件、計74箇所で行った。このうち半数近くは、造成土内で掘削が終了している。ここでは掘削深度の深かった調査について詳細を記す。

調査8は津島地区全域で行われている外灯設置工事に伴う調査である。このうち津島北地区の南東部分で行った調査では、地表下約0.85~1.0mのところで黒色土を確認している。周囲の調査地点よりも浅いところで黒色土を確認しており、この地点が比較的地形の高い部分に位

置していたと想定できる。

調査12（コラボレーションセンター新館に伴うハンドホール設置）A地点は、津島岡大遺跡第5次調査地点の西側に位置する。地表下2.1mまで掘削している。造成土以下で8層を確認しており、古墳時代後期と考えられる灰褐色粘質土層まで掘削が及んでいた。

調査13（環境理工学部校舎（Ⅱ期）新館に伴うスロープ工事）は、津島岡大遺跡第22次調査地点の西に隣接している。地表下3.5mまで掘削したが、土層や遺構の状況は22次調査地点と概ね同じである。黒色土の下面を精査し、縄文時代後期のピット1基を検出した。

調査42（コラボレーションセンター新館に伴う排水溝設置工事）は、津島岡大遺跡第19次調査地点の南側に隣接している。地表下1.1mまで掘削しており、黒色土に対応する層までを確認した。土層の堆積状況は、19次調査地点と概ね同じである。

（2）鹿田地区（図17～20・24 表1）

鹿田地区の立会調査は事業別にみると23件、計53箇所で行った。このうちの多くは、造成土内か近世層までの掘削であった。調査18（基礎医学棟新館に伴う検水槽設置工事）と調査41（病棟新館に伴う共同満解体工事）、調査46は掘削のおよぶ面積がまとまっていたため、土層断面の観察および記録に重点をおいて調査を行った。

調査18地点は第7次調査地点（医学部校舎）の西側に位置する（図17）。調査面積は7.6m²で、近世層、中世層、古墳時代に帰属すると考えられる層と基盤層を確認した（図18）。遺構としては、近世に属する溝と中世では柱穴と東西方向に走る溝を確認している。

調査27（基幹整備（電気設備）地中配管工事①）は、地表下1.25mまで掘削が行われ、造成土以下7面の上層を確認した。時期の分かる遺物が出土しておらず明確な時期は明らかにできないが、近世から中世に帰属すると考えられる。造成土厚は0.5m前後である。地表下1.0mの

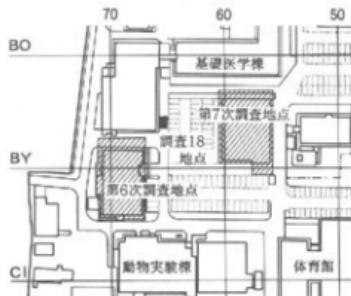


図17 調査18地点位置図 (縮尺1/2,500)

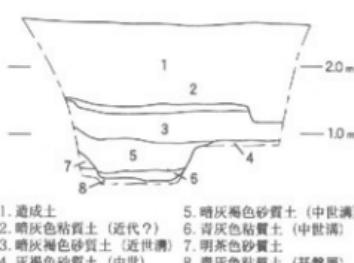


図18 調査18地点東壁断面図 (縮尺1/50)

ところで炭や焼土や土器片を含む土層を確認しており遺構の可能性もある。②地点では地表下1.3mまで掘削が行われた。造成土厚は0.45m前後で、近世層2面とその直下で中世の遺構の埋土を確認した。

調査41は、鹿田遺跡第11次調査で建築工事の都合によって本調査の際に発掘できなかつた部分である。調査面積は7.5m²で、調査は第11次調査地点の10層まで行った。遺構としては、中世の溝1条と浅い土坑1基、ピットを2基検出した。また、第11次調査地点の4層に対応する層で、多数の中世の土器が出土した（平面図については図11に掲載）。

調査46（病棟新宮その他工事汚水管・樹）は、グラウンドの東辺を長さ80m、幅1m、深さ2.0~2.3mにわたって掘削した（図20）。距離が長く、また周辺での調査事例があまり多くないため、上層断面の観察と記録に重点を置いて調査を行うことにした。調査47（防球ネットバー



図19 調査41・46・47地点位置図 (縮尺1/3,000)

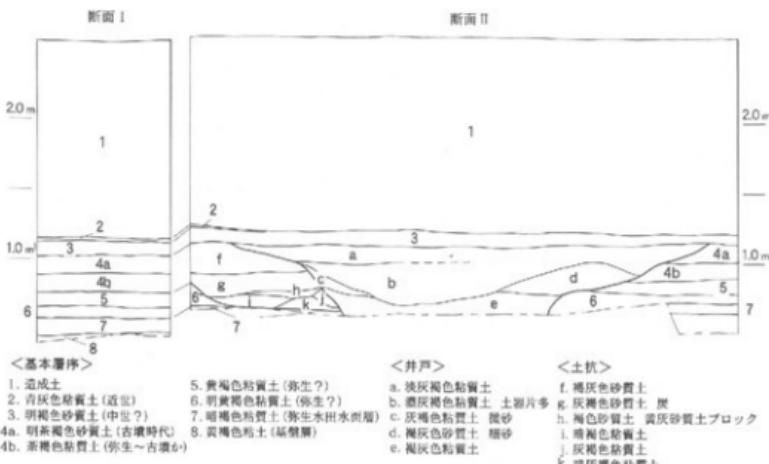


図20 調査46地点西壁断面図 (縮尺1/40)

ル設置工事)とあわせ地形復元で重要な知見を得ることができた(図21)。a区間の北側1/3では中世と考えられる東西方向の溝を確認している。a区間の南側2/3は微高地に位置しているようである。この部分では、中世の土坑や柱穴や東西方向の溝、古墳時代初頭頃の井戸を確認した。井戸からは甕の破片が多数出土した。また、b区間からc区間にかけては中世と考えられる幅の広い東西方向の溝を多數確認した。

調査47は、グラウンドの東辺で11ヶ所を、径40cmのオーガーで深さ2mまで掘削が行われた。掘削範囲が狭かったため、直接土層断面を観察することはできなかった。しかし、上げ土を観察することで大まかな土層を把握することができた。土層の状況は、前述した調査46と概ね同じような状況であり、調査41で確認された状況を補強するものであった。

調査48(病棟新営その他工事汚水検水井)は、地表下約2.0mまで掘削し、基盤層にまで達していた。近世層を2面、中世層を2面、古墳時代と考えられる層と弥生時代の層を確認した。近接した第7次調査地点では、古墳時代前期から近世の遺構が見つかっているが、本調査地点では遺構等は確認できなかった。

図21 調査46地点概略図(縮尺1/1,000)

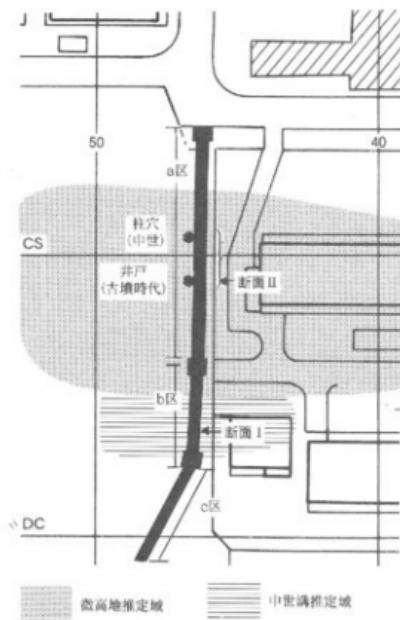


表1 1999年度調査一覧

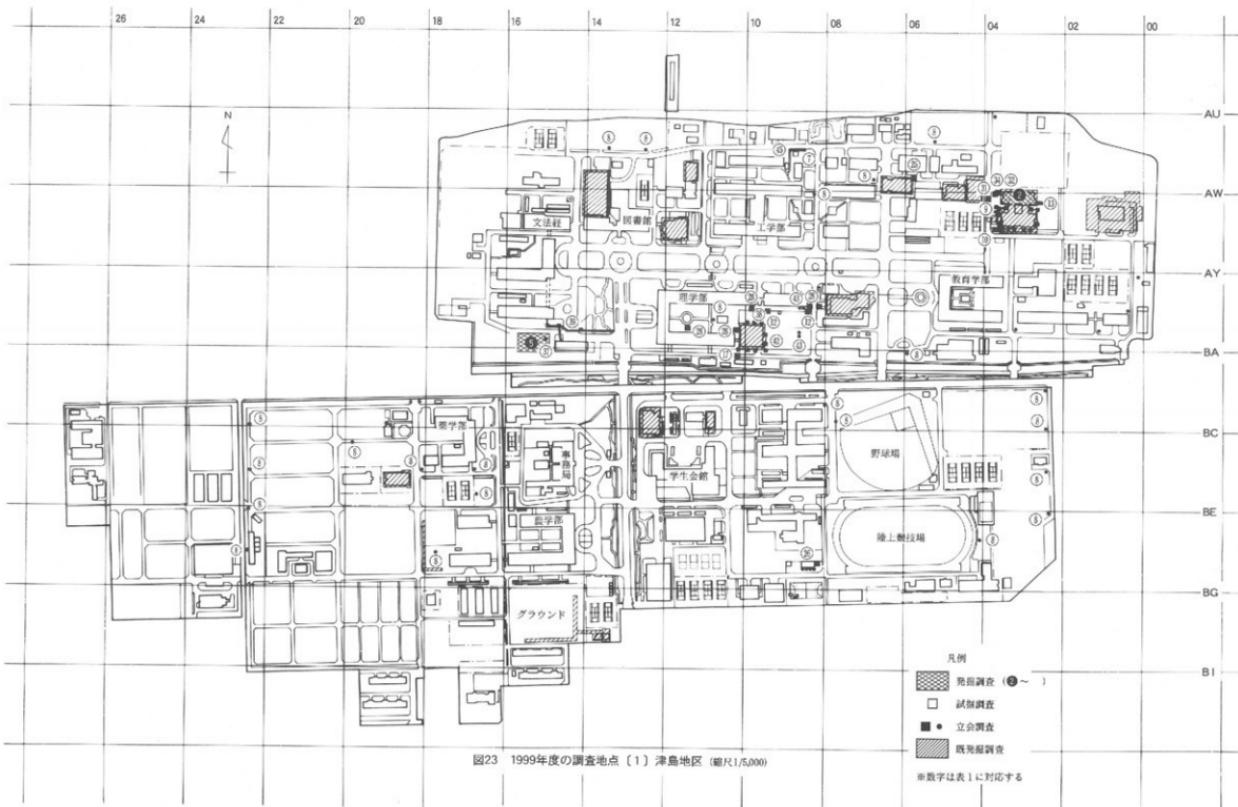
番号	施設 調査 地名	内 容	所 在	調査名 称	調査期間	掘削 深度 (m)	備 考
1	発掘 施設	CB33-37, CF-CF 28-37, CG-CJ 20-37, CK-CL 25-37	医 療	病棟新営に伴う調査	98.11.27～ 99.5.11	1.7	面積2415m ² 、弥生時代水田跡、古代池状遺構、柱穴、井戸、柱穴群、近世～近代溝など確認(農田遺跡第9次調査)
2	発掘 施設	AWG2-03	施	校舎(Ⅲ期)新営に伴う調査	99.3.1～ 7.12	3.5	面積773m ² 、繩文後期ピット・河道、弥生層・中期前・後期河道、古墳～近代浜、水田耕作跡確認(岸島内人遺跡第22次調査)
3	発掘 施設	CD-CE10-12, 00 -DF16-22	医	共同調査設置に伴う調査	99.5.7～ 10.14	3.3	面積244.1m ² 、ヒューム管・高圧マンホール・P.Cボックスカルバート地点では古代の排列、測量立坑部分では弥生ピット、近世調(農田遺跡第10次調査)

番号	種類	調査地名	調査内生層	所属	調査名	調査期間	剖面深度(m)	備考
4	免耕	鹿田 CD-CM19-42	医 痘	病棟新宮に伴う調査		99.8.19~12.22	1.7	面積200坪。弥生時代水田柱跡、古代施設構築。中世下水井戸、ヒット・鋤等確認。 「鹿田遺跡第1次調査」
5	免耕	津島 AZ15.BA14	文書類	施合校舎新宮に伴う調査		00.2.3~3.31	0.8	面積1339m ² 。弥生時代施設跡、古墳時代水田柱跡、古墳時代マット状埋葬跡。 「津島開発調査」
6	試掘	津島 AZ15.BA14	文書類	施合校舎新宮に伴う調査		99.10.25~26	①2.7, ②3.5	①標高2.7mで黑色土、以下疊成り砂層 ②標高1.9mで黑色土+灰化層、 以下同様の堆積確認
7	試掘	津島 AV08	工	電気浴室新宮に伴う調査		00.2.24	1.2	現表土以下、基盤となる岩盤層
8	立会	津島 -	施	構内外灯設置工事		99.4.1~4.7	1.15~1.35	28箇所。うち3箇所で黑色土確認。
9	立会	津島 AV03, AW03	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴う塗剥離・S管埋設		99.4.1	0.8 1.75	近世層まで剥離
10	立会	津島 AW02.03	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴う生透排水・実験排水溝		99.4.2~5.6	0.8~1.5	15箇所。うち1箇所で中世層まで剥離
11	立会	鹿田 CN11.01HE0617, BG-CL45, CC-CP09-12, 0817	医 痘	革幹整備(共同病)		99.5.26~6.22	0.9~2.0	②④では近世層上まで ③木製引き込み式柱敷去3根木移植 ④埋設物確認と柱設柱杭
12	立会	津島 AZ08.09	塗	コラボレーションセンター・新宮工事に伴うアーチホール		99.6.14~16	1.48~2.11	2箇所。うち1箇所で古墳時代施設まで剥離
13	立会	津島 AW02	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴うスリーブ設		99.7.27	3.5	面積25坪。黒色土を由来とする。近代土坑。古墳時代層まで剥離
14	立会	鹿田 BG-09J27.28.BX32	医 痘	基幹整備(機械設備)ガス管		99.8.3,4	0.7~1.2	造底工内・既設工事内
15	立会	津島 AV05~71	塗	研究棟新宮に伴う給排水水・管		99.8.9	1.2~1.4	造成土内 中性層まで剥離
16	立会	津島 C038~39	灰	樹木移植		99.8.9	1.04	造成土内
17	立会	津島 BA19	塗	コラボレーションセンター・新宮工事に伴うガス管		99.8.18	1.2	造成土内
18	立会	鹿田 BU05	灰	研究棟新宮に伴う被木構		99.8.18~20	2.2	面積8.2m ² 。近世層。中世層・ヒット確認
19	立会	鹿田 BG12, CR27.CX31.CN1	医 痘	基幹整備(機械設備)PL外配管		99.8.27~9.22	1.16~1.47	1箇所。近世層まで剥離
20	立会	鹿田 AS56, 61, 65	医 痘	分子細胞施設外灯設置		99.9.27	1.1	造成土内
21	立会	鹿田 BR-BT55	医	研究棟新宮に伴うガス管設置		99.10.6	1	既設工事内
22	立会	鹿田 BK55~61	医	研究棟新宮に伴う直埋ガスピット		99.10.12	0.7	既設工事内
23	立会	鹿田 BT-CB54	医	研究棟新宮に伴う給排水管		99.10.13, 10.29	0.7~1.15	近世層まで剥離
24	立会	鹿田 CG08~10	医 痘	基幹整備(共同病)		99.10.28, 11.2	1.1~1.5	近世層まで剥離
25	立会	津島 AV05	施	I学部情報・学科棟裏側道路設置工事		99.10.29	0.9	既設工事内
26	立会	津島 BF08	塗	第一製茶取り繕し		99.10.29	0.55~1.13	明治層まで
27	立会	鹿田 BY 82, 44, 5143~44	医 痘	革幹整備(電気設備)地中配管		99.11.2, 31	1.25~1.45	中世層まで剥離。時期不明の遺構・土壁等
28	立会	津島 AV08~09, AZ10~11	塗	コラボレーションセンター新宮に伴う屋外配管		99.12.20~00.1.17	0.88~1.1	5箇所。うち2箇所で明治層まで
29	立会	津島 AE41	医	路園児童園地質調査		00.1.11	1.5	灰色粘土層まで
30	立会	鹿田 CL-CR69, CM1	医 痘	病棟新宮に伴う樹木移植		00.1.17~1.19	0.8	近世遺構確認
31	立会	津島 AW03	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴うガス管		00.1.17	1.1	近世層まで剥離
32	立会	津島 AW03	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴うガス管		00.1.17	0.7	造成工事内
33	立会	鹿田 CK11, CM12~1	医 痘	病棟新宮に伴う設置柱杭		00.1.19	1.1~1.5	近世層まで剥離
34	立会	津島 AW03	塗	校舎(Ⅲ期)新宮に伴う危険物保管室基礎		00.1.24	0.7	造成工事内
35	立会	鹿田 CM-0325~28	医 痘	病棟新宮に伴う柱杭埋設		00.1.24	1.5	造底土以下4枚の解建芯

番号	種類	調査地区	横内序標	所属	調査名称	調査期間	開削深度(m)	備考
36	立会	鹿田	CF13, CG13	医 病	病棟新宮に伴う工事用出入り口	00.1.25— 1.28	0.5— 0.9	造成土内
37	立会	津島	AZ14	文部省 総合研究所建設予定地発掘調査に伴う樹木移植		00.1.25	0.7	造成土内
38	立会	津島	AZ09	逐	コラボレーションセンター新宮に伴う排水網	00.1.25	0.76— 1.3	近世層まで掘削
39	立会	津島	AZ13—14	文部省	津島地区沿岸帯施	00.1.27	1.3	削除層上面まで
40	立会	鹿田	CF013, CL15, 16	医 病	病棟新宮に伴う仮設ゲート・洗車場	00.1.28	0.47 0.63	造成土内
41	立会	鹿田	CF21—28, CF CL28, CB—CF28 —33	医 病	病棟新宮に伴う共同調査体	00.1.31— 2.2	1.7 2.2	面積16畳、鹿田11事調査3区両側部分で中 央ピット確認
42	立会	津島	AZ09	理	コラボレーションセンター新宮に伴う排水網	00.2.9— 2.14	1.0— 1.2	5箇所。うち1箇所で黒色土層発見まで掘 削
43	立会	津島	AZ08	理	コラボレーションセンター新宮に伴う樹木移植	00.2.15	0.8	造成土内
44	立会	鹿田	CJ—CL15, 17	医 病	病棟新宮に伴うカマ縫隙削	00.2.16	1	造成土内
45	立会	津島	AV08	工	プレハブ設置に伴う樹木移植	00.2.17	0.8	造成土内
46	立会	鹿田	CV46, CW45, DA45	医 病	病棟新宮に伴う污水網	00.2.21— 3.8	2.3	古墳時代井戸1基、土坑1基、中世窯等の 遺構確認
47	立会	鹿田	CH—CR—CP—CB—CT —58, CV—DA—DC —59, EF59	医 痘	グラウンド防護キャットボール	00.3.9	2.0— 2.3	1箇所。尚から6箇所は河底状、7—10箇 所は築高船形、段北端では河道状
48	立会	鹿田	BT51	医 病	病棟新宮に伴う污水排水網	00.3.13	2	造成土以下7層確認。古墳時代層まで掘削 か。



図22 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)



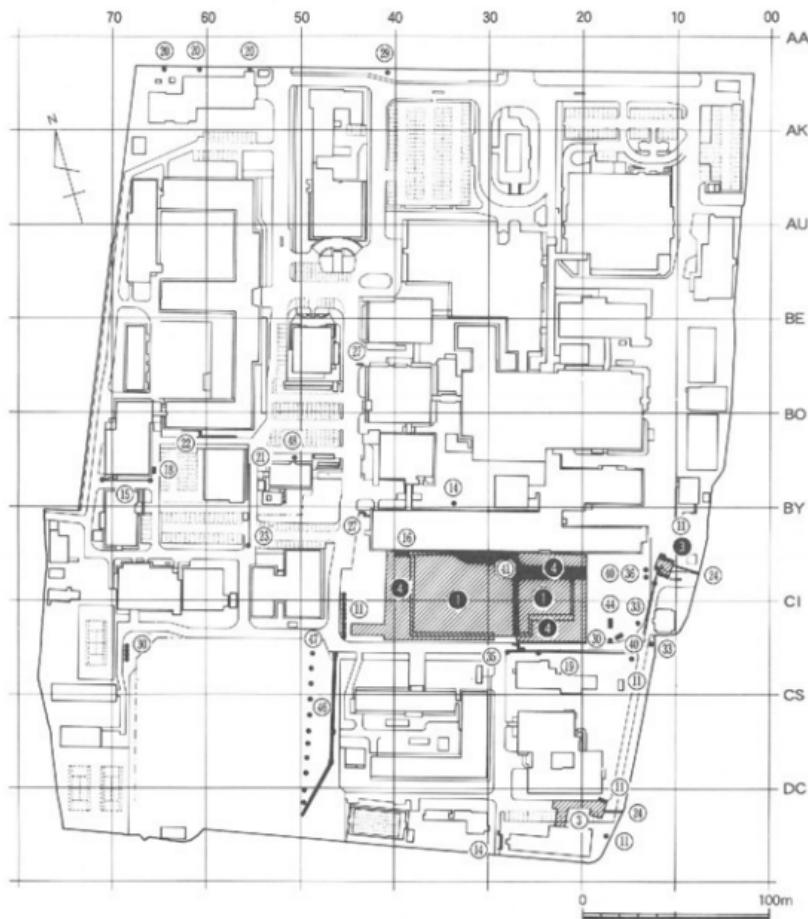


図24 今年度の調査地点〔2〕鹿田地区 (縮尺1/3,000)

第2章 1999年度普及・研究・資料整理活動

1 資料整理

本年度は次の3件について発掘調査資料の整理を行った。

- ① 津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）：遺物の実測
- ② 津島岡大遺跡第12次調査（附属図書館）：遺構図整理
- ③ 三胡福岡遺跡（固体地球センター実験研究棟）：報告書刊行

2 刊行物

刊行物については、以下の4冊を編集・発行した。

- | | |
|-----------------------------|---------|
| ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第22号 | 1999年9月 |
| ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第16号 | 2000年1月 |
| ③ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第23号 | 2000年3月 |
| ④ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 福呂遺跡 I | 2000年3月 |

3 調査員の活動

科研費・研究助成等

（1）校費

山本悦世・岩崎志保・喜田敏・小林青樹・豊島直博・野崎貴博・横田美香：平成11年度教育研究学内特別経費「大学博物館のあり方と学内学術標本のデータベース化に関する学際的研究」
(研究代表者：新納泉)

（2）科学研究費補助金採択状況

小林青樹：平成11年度科学研究費（特定領域研究A 2：研究代表者）「縄文・弥生移行期における呪的遺物の集成的研究」

豊島直博：平成11年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代における軍事組織形成過程の研究」

野崎貴博：平成11年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代の土製品の集成的研究」

資料収集活動

岩崎志保：漢代文物の実見調査、縄文時代後期集落遺跡調査（長崎県福江市中島遺跡）

喜田 敏：弥生時代墳墓出土土器の調査（岡山県古代吉備文化財センター）、弥生時代前期墳墓及び出土資料の調査（佐賀県大友遺跡、島根県堀部第1遺跡）

小林青樹：平成11年度科学研究費（特定領域研究A 2：研究代表者）「縄文・弥生移行期にお

ける呪的遺物の集成的研究』に関する資料調査

豊島直博：平成11年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代における軍事組織形成過程の研究」に関する資料収集：古墳出土鉄製品の調査（長崎県、福岡県、鳥取県、島根県、大阪府、京都府の関係諸機関）

野崎貴博：平成11年度科学研究費（奨励研究A）「古墳時代の土製棺の集成的研究」に関する資料調査（島根県、福岡市）、福岡県、佐賀県の古墳踏査

山本悦世：縄文時代集落の資料調査（岡山県久田原遺跡）、弥生時代前期集落の資料調査（岡山県清水谷遺跡）

横田美香：北房町定北古墳川土陶棺の調査、群集墳の実態調査（兵庫県中町東山古墳群）

学会・研究会参加等

岩崎志保：考古学研究会総会（4月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）

喜田 敏：考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会総会（5月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）

小林青樹：考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会総会（5月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）、埋蔵文化財研究集会（2月）

豊島直博：考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会総会（5月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）

野崎貴博：考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会総会（5月）、埋蔵文化財研究集会（8月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）

山本悦世：考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会総会（5月）、関西縄文文化研究会（5月）、中・四国縄文研究会（6月）、埋蔵文化財研究集会（8月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）、九州縄文研究会（2月）

横田美香：考古学研究会総会（4月）、考古学研究会第4回シンポジウム（11月）

研究発表他

野崎貴博：「吉備の集団と地域間交流—埴輪と棺から—」（考古学研究会岡山例会第4回シンポジウム『吉備の埴輪』）

山本悦世：「岡山県下における縄文時代研究の現状と課題」（中・四国縄文研究会）

「鹿田遺跡と鹿田庄」（倉敷埋蔵文化財センター）

論文・資料報告

岩崎志保：「大原美術館所蔵の漢代画像石」『古代吉備』21号

「保管方法の研究 考古資料保管の現状と課題」『岡山大学自然と人間の共生博物館—新しい大学博物館をめざして』Ⅰ 資料・研究編

- 喜田 敏：『ユニバーサル化計画からみたデジタル・ミュージアムの問題と期待』『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編（共著）
- 小林青樹：『縄文・弥生移行期の石製呪術具 1』考古学資料集第12
「瀬戸内における弥生文化の成立」『シンポジウム記録 1 論争古備』
『ユニバーサル化計画からみたデジタル・ミュージアムの問題と期待』『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編（共著）
- 豊島直博：『古墳時代における軍事組織の形成』『国家形成期の考古学』
「鉄器埋納施設の性格」『考古学研究』第46巻第4号
- 『ユニバーサル化計画からみたデジタル・ミュージアムの問題と期待』『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編（共著）
- 野崎貴博：『埴輪製作技法の伝播とその背景』『考古学研究』第46巻第1号
「発掘調査担当者資格制度と大学博物館」『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編
- 山本悦世：『資料の保存処理について－考古資料の場合－』『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編
- 横田美香：『岡山県の博物館』『岡山大学自然と人間の共生博物館－新しい大学博物館をめざして－』資料・研究編
- その他（博物館の資料展示などに関する実態調査）
- 岩崎志保：滋賀県立琵琶湖博物館、銅鐸博物館、竹中大工道具館
- 喜田 敏：山口県立萩美術館・浦上記念館、島根県鹿島町立歴史民俗資料館
- 山本悦世：竹中大工道具館、川崎医科大学付属現代医学教育博物館
- 横田美香：大阪府立近つ飛鳥博物館、竹中大工道具館、宮城県立東北歴史博物館、川崎医科大学付属現代医学教育博物館

4 日誌抄

1999年

- 4月1日 喜田敏助手、福井優技術補佐員着任
 4月2日 第1回月例会議
 4月15日 第37回運営委員会
 4月29日 鹿田遺跡第9次調査現地説明会
 5月7日 鹿田遺跡第10次調査（発進立坑部分）開始
 5月10日 鹿田9次調査終了、第2回月例会議
 5月17日 第38回運営委員会
 5月20日 鹿田遺跡第10次調査（発進立坑部分）終了
 県立博物館へ資料貸し出し
 6月4日 第3回月例会議
 6月21日 鹿田遺跡第10次調査（到達立坑・現場打ち共同溝部分）開始
 6月29日 木器処理3期分引き上げ
 7月1日 第4回月例会議
 7月6日 鹿田遺跡第10次調査（到達立坑・現場打ち共同溝部分）終了
 7月8日 県立博物館より遺物返却。
 7月14日 木器処理第4期分開始（PEG濃度30%より）
 7月16日 津島岡人遺跡第22次調査、古環境研究所によるサンプル採取
 8月2日 第5回月例会議、文学部博物館実習開始（8月10日まで）
 8月9日 鹿田遺跡第11次調査造成土掘削開始
 8月19日 鹿田遺跡第11次調査開始
 9月2日 第6回月例会議
 9月6日 鹿田遺跡第10次調査（ヒューム管・高圧マンホール部分）開始
 9月16日 木器処理PEG濃度30%から40%へ上昇
 9月17日 センター報22号入稿
 9月20日 鹿田遺跡第10次調査（ヒューム管・高圧マンホール部分）開始
 9月21日 運営委員会
 9月26日 鹿田遺跡第10次調査（PCボックスカルパート部分）開始
 9月29日 管理委員会

- 10月4日 第7回月例会議、センター報22号納品
 10月12日 県立美術館写真貸し出し
 10月14日 鹿田遺跡第10次調査（PCボックスカルパート部分）終了
 10月18日 注記マシーン搬入
 10月19日 運営委員会
 10月25日 津島地区総合研究棟新営予定地試掘調査
 10月27日 木器処理PEG濃度40%から50%へ上昇
 11月1日 第8回月例会議
 12月6日 第9回月例会議
 12月7日 運営委員会
 12月21日 鹿田遺跡第11次調査終了
 12月22日 大掘除、ワックス掛け
 12月28日 御用始め
- 2000年
- 1月4日 御用始め
 1月5日 第10回月例会議
 1月6日 木器処理PEG濃度50%から60%へ上昇
 1月25日 建設業作業主任者講習受講（山本・岩崎・豊島・野崎・横田、1月27日まで）
 1月27日 津島岡人遺跡第23次調査造成土掘削開始
 1月28日 構内遺跡調査研究年報16 納品
 2月1日 第11回月例会議
 2月3日 津島岡大第23次調査開始
 2月22日 注記マシーン返却
 2月23日 工学部電波暗室新営予定地試掘調査
 3月1日 第12回月例会議
 3月7日 運営委員会
 3月14日 構内遺跡発掘調査報告第15冊福岡遺跡Ⅰ納品
 3月16日 臨時会議
 3月29日 午報16、福呂遺跡Ⅰ発送
 3月31日 小林青樹助手・喜田敏助手退職、豊島直博助手、奈良国立文化財研究所へ異動

5 1999年度までの遺物保管状況

1999年3月31日における本センターの遺物収蔵量は表2に掲げる通り、約30リットル収納のコンテナに換算して2074箱である。昨年度から197箱の減少となった。これは津島岡大遺跡第22次調査、鹿田遺跡第9～11次調査において230箱の遺物の出土があった一方、室内整理において特に土壌サンプルの洗浄・選別作業が進み、結果的に箱数が減じたためである。また試掘・立会調査における遺物の出土は少なく、若干の増加にとどまった。

遺物保管状況については、依然として発掘調査が連続して行われており、箱数は益々増加するのは確実である。遺物整理が進めば、遺物の形態・保存方法は変化することがあり、さらに収蔵スペースが必要となることも予測される。早急の対応が必要である。

表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所属 差類	地 調 査 名 称	区 域	箱数（1箱：約30リットル）						備 考 主要時期・特殊遺物	文 獻	
			総 数	土 器	石器	木器	織子	その他	サンプル		
医病	発振	鹿山第1次調査(外来診療棟)	598	493	15.5	60	0.5	1	28	弥生中期～中・近世。 短甲狀・纏状木器等	⑦
" "	"	鹿田第2次調査 (NMR CT室)	118.9	94	0.4	20	0.5		4	弥生後期～中世、田 舟、木舟等	"
医病	"	鹿田第3次調査(検査)	131.6	36	0.3	90	0.3		5	古代～中世	⑩
" "	"	鹿山第4次調査(配管)	3.5	2	0.3		0.2		1	古代。鹿角製品	"
医病	"	鹿山第5次調査(管理棟)	130	87	2.5	20	1.5		19	弥生後期～中・近世	⑪
ア	"	鹿山6次調査 (アイントラブ総合センター)	62	59	0.5	1	1.5			中世。青銅鏡碗	④
医	"	鹿田第7次調査(基礎医学棟)	81	66		10		1	4	弥生～近世	⑨
" "	"	鹿山第8次調査(R1治験棟)	8	8						弥生～近世	"
医病	"	鹿田第9次調査(病棟)	120.1	96	0.1	13		9	2	弥生～近世。木簡3点	⑬
" "	"	鹿田第10次調査(共同施)	2	2						古代～近世	"
" "	"	鹿山第11次調査(病理Ⅰ期)	74	66		4		2	2	弥生～近世。木簡1点	"
全	"	津島岡大第1次調査(NP-1)	5	0.5	0.5	4				弥生中期～古代	⑫
農	"	津島岡大第2次調査 (農学部合併修理棟・配管)	17.5	12	1.5				4	縄文晚期～弥生前期	⑩
学生	"	津島岡大第3次調査 (男子学生寮)	67	49	1.5	2	4.5		10	縄文後期～弥生、古 代～近世 石製指輪、 蛇頭状1器片	⑧
" "	"	津島岡大第4次調査 (屋内運動場)	1	1						縄文後期～弥生前中期 (試掘調査遺物を含む)	⑥
大自	"	津島岡大第5次調査 (大学院自然科学研究科棟)	82	68	3	1	8		2	縄文後期～弥生、古 代～近世 耳栓、木製 壇(網文)	⑩
工	"	津島岡大第6次調査 (生物応用工学科棟)	49	33	1	9	5			縄文後期～近世 人形 木像、アンペラ	⑩
" "	"	津島岡大第7次調査 (情報工学科棟)	31.5	10	0.5	1			20	縄文後期～近世	"

所属	種類	地 調 査 名 称	区 域	箱数（1箱：約30リットル）						備 考 主要時期・特殊遺物	文 獻	
				総 数	土 器	石器	木器	種子	その他	サンプル		
全	発掘	津島岡大第8次調査 (遺伝子実験施設)		11.5	10	0.5				1	縄文後期～近世	④
工	"	津島岡大第9次調査 (生体機能応用工学科)		50.5	39	2.5	3			15	縄文後期～近世	⑤
全	"	津島岡大第10次調査 (保健管理センター)		84	69		5			10	弥生前期～近世	④
"	"	津島岡大第11次調査 (総合情報処理センター)		5.5	3	0.5				2	縄文後期～近世	⑤
"	"	津島岡大第12次調査 (図書館)		55	24	1	20			10	縄文後期～近世	④
"	"	津島岡大第13次調査 (福利厚生施設 北)		12.5	12	0.5					縄文後期～古墳前期・中世	④
"	"	津島岡大第14次調査 (福利厚生施設 南)		13	12					1	弥生～古墳	④
"	"	津島岡大第15次調査 (サテライトベンチャービジネスラボトリ-))		67	13	10	20			24	縄文後期・晩期・弥生～中世 アンペラ	④
農業	"	津島岡大第16次調査 (動物実験棟)		0.3	0.3						縄文後期・弥生～中世	④
環	"	津島岡大第17次調査 (環境理工学部校舎Ⅰ期)		76	61	3				12	縄文後期～近世	"
全	"	津島岡大第18次調査 (南福利ポンプ場)		1	1						縄文後期～近世	④
"	"	津島岡大第19次調査 (コラボレーションセンター)		45	24	1	4		2	14	縄文後期～近世	"
環	"	津島岡大第20次調査 (環境理工学部ポンプ場)		1	1						縄文後期～近世	"
T.	"	津島岡大第21次調査 (T学部エレベーター)		7	5	2					縄文中期～近世	"
環	"	津島岡大第22次調査 (環境理工学部校舎Ⅲ期)		34	26	2	3			3	縄文後期～近世、古代 塚部材、曲げ物	"
園	"	福昌遺跡第1次調査 (実験研究棟)		9	8					1	縄文早期・弥生中期・中世	④
"	"	福昌遺跡第2次調査 (実験研究棟 スロープ)		2.1	2				0.1		中世～近世	"
医療	試験	鹿 田 草本舗		1	1						弥生～中世	④
学生	"	津島北 男子学生寮		1	0.7	0.3					縄文後期～弥生前期	"
教育	"	研究棟										
大口	"	自然科学研究科棟		1	1						縄文後期～弥生前期	④
事	"	津 島 外国人宿舎(土牛)		1	1						縄文～中世	④
理	"	津島北 身障者用エレベーター		0.3	0.3						中・近世	"
教養	"	津島南		0.7	0.7						縄文・中世	"
工	"	津島北 校舎		1	1						縄文～近世	④
農業	"	津島南 動物・遺伝子実験施設		0.7	0.7						縄文～弥生・中・近世	"
事	"	津島南 國際交流会館		0.3	0.3						中世	"

所属	種類	地 調 査 名 称	箱数（1箱：約30リットル）					備 考 主要時期・特殊遺物	文 獻	
			總 数	土 器	石器	木器	種子	その他 サンプル		
大口 試掘		津島北 合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑧
学生	"	津島南 学生合宿所	0.4	0.2				0.2	中世	"
教育	"	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					商文	"
図	"	図書館	0.8	0.8					占墳～中世	"
学生	"	津島南 学生合宿所ポンプ槽	0.4	0.4					商文～中世	⑬
資生	"	食 繁 資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	"
ア	"	鹿 田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	"
事	"	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5					弥生？～中世	"
農	"	津島南 動物実験施設	0.1	0.1					商文？～近世	⑩
織	"	津島北 環境理工Ⅱ期	0.1	0.1						
工	"	津島北 システム工学科棟	0.1	0.1						
全	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	①
"	"	'84年度	1	1						②
"	"	'85年度	1	1						③
"	"	'86年度	0.5	0.5						④
"	"	'87年度	0.5	0.5						⑤
	分布	'89年度 三郷・本島	0.3	0.3						⑥
全	立会	'91年度 '92年度	0.3	0.3						⑦ ⑧
"	"	'93年度 '94年度 '95年度 '96年度 '97年度 '98年度 '99年度	0.8	0.8						⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
総 箱 数			2073.9	1500.7	50.9	290	23	15.1	194.2	

木本器・種子・サンプルについては、資料整理が進むにつれ、特に収容形態が変化するため、箱数の変化が顕著であることを断っておく。

6 遺物の保存処理

本センターでは1992年度より構内遺跡から出土した木製品についてPEG（ポリエチレングリコール）含浸による保存処理作業を行っている。これまでに、第1期保存処理を1992年7月～1993年11月、第2期保存処理を1994年6月～1996年8月まで実施してきた。

今年度は昨年度より継続中の第3期分について最終的な作業を行い、さらに第4期分処理を開始した。

（1）第3期保存処理

第3期保存処理は1996年12月から開始したもので、処理工程は表3の通りである。

第3期分保存処理は年度としては4年にわたり、これまでより長期の処理となった。これ

は、この間、発掘調査が相次ぎ、調査の合間に繰っての作業となつたことと、処理回数を重ねてきたことから濃度上昇を10%刻みとして含浸期間を長くとることが有効であるとわかつてきしたことの2点の理由からである。濃度が90%に達して以後は5%の上昇とし、95%としてからは、処理槽の蓋を開け、水分を蒸発させることで100%に近づけ、今年度の6月に全工程を終了した。

(2) 第4期保存処理

第4期保存処理は7月15日より開始した。開始時のPEG処理濃度は30%である。以後今年度の処理工程は以下の通りで、引き続き来年度に継続した。

1999年7月15日	処理開始(30%より)	2000年1月6日	濃度60%に上昇
9月16日	濃度40%に上昇	3月16日	濃度70%に上昇
10月27日	濃度50%に上昇		

7 利活用状況

a. 資料等の貸し出し

月 日	資 料	貸し出し先	用 途
5月7日	鹿田遺跡写真	中世都市研究会事務局	「中世都市研究第6号—都城研究の方法」掲載のため
5月20日	鹿田遺跡出土木製短甲	岡山県立博物館	特別展「岡山の甲冑」展示のため
9月3日	津島岡大遺跡貯藏穴カラー写真・同遺跡出土東日本系土器写真	雄山閣出版社	季刊考古学第69号掲載のため
10月5日	津島岡大遺跡出土櫛の写真	岡山県立美術館	第46回日本伝統工芸展岡山店関連事業「子供鑑賞ガイド」掲載のため
10月15日	鹿田遺跡井戸・土坑出土ガラス滓	岡山理科大学自然科学研究所	蛍光X線分析のため
1月6日	鹿田遺跡発掘調査写真(リバーサルフィルム)	岡山市教育委員会	岡山市埋蔵文化財センター展示

b. センター展示・発掘調査見学状況

① 鹿田遺跡第9次調査見学

5月6日 鹿田小学校6年生144名

4月29日 現地説明会200名

② 津島岡大遺跡第22次調査見学

4月28日 横井小学校6年生140名

6月3日 岡山大学文学部地理学学生35名

6月8日 岡山大学理学部地学教室

7月8日 岡山大学文学部考古学入門学生

7月13日 岡山大学教育学部地理学学生10名

③ センター展示見学

7月15日 岡山大学文学部考古学入門学生17名ほか、1999年度合計 約40名



写真3 鹿田9次調査 現地説明会開催状況

第3章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

第1節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程

1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

(設 置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(目 的)

第2条 センターは、本学の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護をはかることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に關すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に關すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に關すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

(自己評価)

第2条の2 センターは、岡山大学学則（昭和26年岡山大学規程第32号）第1条の2の定めるところにより、センターの係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行うものとする。

- 2 前項の自己評価を行うため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。
- 3 自己評価委員会に関する規程は、別に定める。

附 則

この規程は、平成5年2月25日から施行する。

○岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価を行うこととするため。

(センター長)

- 第3条 センターにはセンター長を置く。
- 2 センター長は、専門的知識を有する本学の教授の中から学長が命ずる。
 - 3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。
 - 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

- 第4条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。
- 2 調査研究室に室長、調査研究員及びその他必要な職員を置く。
 - 3 室長は、専門的知識を有する本学の教官の中から学長が命ずる。
 - 4 室長は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。
 - 5 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
 - 6 調査研究員及びその他の職員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

- 第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るために、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。
- 2 専門委員は、本学の教官の中から学長が命ずる。

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理委員会)

第6条 本学に、センターの管理運営の基本方針を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

2 管理委員会に関する規程は、別に定める。

(運営委員会)

第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(事務)

第8条 センターの事務は、施設部企画課において処理する。

(難則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この規程は、昭和62年11月26日から施行する。

2 この規程施行後最初に任命されるセンター長、室長及び専門委員の任期は、第3条第4項、第4条第5項及び第5条第3項の規定にかかるわらず、昭和64年3月31日までとする。

○設定理由

岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の発掘調査などの業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図るため、学内施設として、新たに岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを設置すること及びその組織等必要な事項について定めるため。

2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第6条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針その他重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 管理委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

一 学長

二 各学部及び教養部長

三 自然科学研究科長

四 資源生物研究所長

五 附属図書館長

六 各附属病院長

七 地球内部研究センター長

八 学生部長

九 医療技術短期大学部主事

十 事務局長

十一 埋蔵文化財調査研究センター長

(委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、管理委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求める、その意見を聞くことができる。

(幹事)

第6条 管理委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(庶務)

第7条 管理委員会の庶務は、施設部全画譜において処理する。

附 則

この規程は、昭和62年11月26日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針等を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会に関し、必要な事項を定めるため。

3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程(昭和62年岡山大学規定第48号)第7条第2項に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)に関する、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター(以下「センター」という。)の運営に関する具体的な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の号に掲げる委員で組織する。

一 埋蔵文化財調査研究センター長(以下「センター長」という。)

二 本学の教授のうちから学長が命じた者若干名

三 センターの調査研究専門委員から学長が命じた者1人

四 センターの調査研究室長

五 施設部長

2 前項第2号の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求める、その意見を聞くことができる。

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

(底 務)

第6条 運営委員会の底務は、施設部企画課において処理する。

附 則

- この規程は、昭和62年11月26日から施行する。
- この規程施行後最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの運営に関する具体的な事項を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会に関し、必要な事項を定めるため。

4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規程第48号）第2条の2第3項の規定に基づき、岡山埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係る点検及び評価の実施に関し、必要な事項を審議する。

(組 織)

第3条 委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

- 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
- 埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長
- センターに勤務する教官のうちから若干名
- 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会委員のうちからセンター長が委嘱した者若干名
- 施設部長

2 前項に定める委員のはか、センター長が必要と認めた者を加えることができる。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

(会 議)

第5条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(底 務)

第6条 委員会の底務は、施設部企画課において処理する。

(附 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

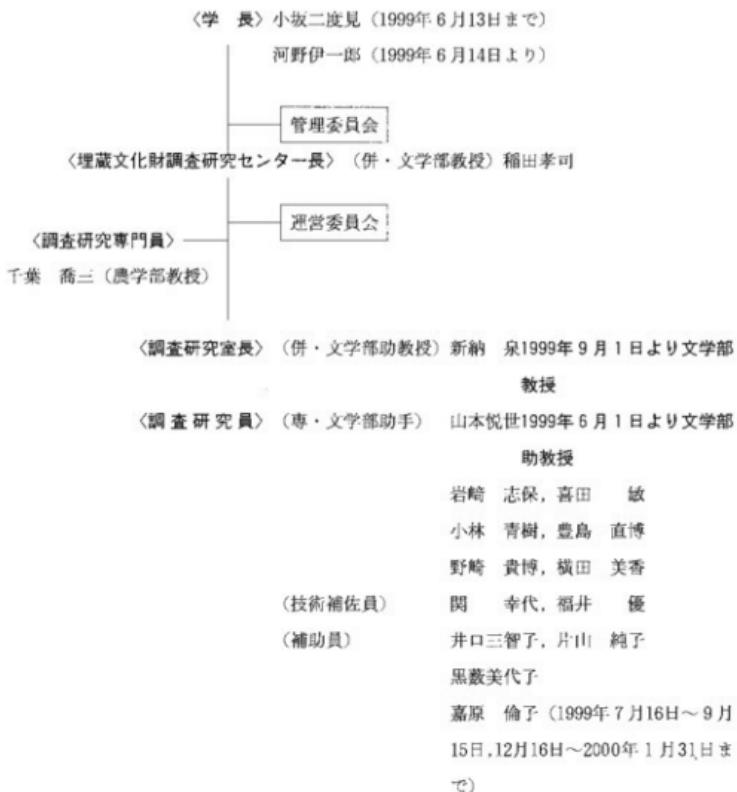
この規程は、平成5年2月25日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価の実施に関する必要な事項を審議するために置く岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会について、必要な事項を定めるため。

第2節 1999年度埋蔵文化財調査研究センター組織

1 センター組織一覧



2 管理委員会

委員

学長	小坂二度見 (1999年6月13日まで)	法学部長	石島 弘
	河野伊一郎 (1999年6月14日から)	経済学部長	建部 和弘
副学長	松畑 熙一 (1999年6月13日まで)	理学部長	山善比登志
	佐藤 公行 (1999年6月14日から)	医学部長	難波 正義
文学部長	稻田 孝司	歯学部長	松村 智弘
教育学部長	森川 直	薬学部長	原山 尚

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

工学部長	大崎 紘一	医学部附属病院長	荒田 次郎
環境理工学部長	阪田 憲次	歯学部附属病院長	佐藤 隆志
農学部長	稻葉 昭次	固体地球研究センター長	河野 長
文化科学研究科長	工藤進思郎	医療技術短期大学部長	太田 武夫
自然科学研究科長	中島 利勝	事務局長	諸橋 雄雄
資源生物化学研究科長	本吉 總男	埋蔵文化財調査研究センター長	稻田 孝司
附属図書館長	岩見 基弘		

幹 事

事務局総務部長	山崎 洋輔	事務局施設部長	遠藤 久男
事務局経理部長	菊地 俊彦		

審議事項

1999年4月28日 平成10年度決算及び平成11年度予算案について

平成11年度事業計画

鹿田遺跡第9次調査経過報告

1999年9月29日 岡山大学津島地区内遺跡保護について

医学部附属病院病棟新営に伴う事業計画の変更について

・鹿田遺跡第9次調査の終了、・津島岡大遺跡第22次調査の終了

・鹿田遺跡第11次調査について、・鹿田遺跡第10次調査について

1999年10月27日 助手の任期制について

1999年12月22日 助手の採用について

平成13年度概算要求事項について

埋蔵文化財調査研究センターの人事について

岡山大学総合研究博物館（仮称）構想について

平成11年度補正予算に伴う事業計画について

・鹿田遺跡第10次調査の終了、・鹿田遺跡第11次調査の終了報告

・津島岡大遺跡第23次調査について

2000年3月22日 助手の採用について

3 運営委員会

委 員

センター長	稻田 孝司	文学部教授	倉知 克直
理学部教授	柴田 次男	農学部教授	千葉 喬三（調査研究専門員）

医学部教授 村上 宅郎 事務局

遠藤 久男(施設部長)

環境理工学部教授 名合 宏之 埋蔵文化財調査研究センター 新納 泉(調査研究室長)

審議事項

1999年4月15日 平成10年度決算及び平成11年度予算案について

平成11年度事業計画

1999年5月17日 定員の振替について

岡山大学津島地区東北隅地域の遺跡保護について

借用定員の今後の在り方について

その他

1999年9月21日 助手の任期制について

医学部附属病院病棟新営に伴う事業計画の変更について

・鹿田遺跡第9次調査の終了、・津島岡大遺跡第22次調査の終了

・鹿田遺跡第11次調査について、・鹿田遺跡第10次調査について

1999年10月19日 助手の任期制について

1999年12月7日 助手の採用について

平成13年度概算要求事項について

鹿田遺跡第11次調査経過報告

施設整備に伴う今後の埋文調査予定について

作業主任者講習の受講について

2000年3月7日 助手の採用について

埋蔵文化財調査研究センター人事について

埋蔵文化財調査研究センター規程等の改正について

第3節 1999年度審議・決定事項

1999年度には、埋蔵文化財調査研究センターに関わる規則等の改正をはじめとして、いくつかの重要な事項が審議・決定された。以下に審議過程および決定事項について掲載する。

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則等の改正

2000年3月7日開催の運営委員会において、埋蔵文化財調査研究センター規則、埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規則、埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規則の一部改正が報告され、2000年4月1日より施行されることとなった。

改正点は以下の通りである。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程の一部改正新旧条文対照表

現 行	改 正
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則
第1条・第2条 省略 <u>(自己評価)</u>	第1条・第2条 同左 <u>(自己評価等)</u>
第2条の2 センターは、岡山大学学則（平成6年岡山大学規則第64号）第2条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行うものとする。	第2条の2 センターは、岡山大学学則（平成6年岡山大学規則第64号）第2条の定めるところにより、センターに係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。
2 前項の自己評価を行うため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。	2 前項の自己評価については、本学の職員以外の者による検証を受けるよう努めるものとする。
3 自己評価委員会に関する規程は、別に定める。	3 第1項の自己評価を行うため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。
3 条 センターにセンター長を置く。	4 自己評価委員会に関し、必要な事項は、別に定める。 (教育研究等の状況の公表)
2 センター長は、専門的知識を有する本学の教授のうちから学長が命ずる。	第2条の3 センターは、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。
3・4 省略 (調査研究室)	第3条 センターにセンター長を置く。
第4条 1・2 省略	2 センター長は、専門的知識を有する本学の専任教授のうちから学長が命ずる。
3 室長は、専門的知識を有する本学の教官のうちから学長が命ずる。	3・4 同左 (調査研究室)
4~6 省略 (調査研究専門委員)	第4条 1・2 同左
第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るために、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。	3 室長は、専門的知識を有する本学の専任教官のうちから学長が命ずる。
2 専門委員は、本学の教官のうちから学長	4~6 同左 (調査研究専門委員)
	第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るために、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。
	2 専門委員は、本学の専任教官のうちから学長

現 行	改 正
が命ずる。	が命ずる。
3 省略 <u>(管理委員会)</u>	3 同 左 <u>(管理運営の基本方針等)</u>
第6条 本学に、センターの管理運営の基本方針等を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。	第6条 センターの管理運営の基本方針等は、岡山大学部局長会で審議する。
2 管理委員会に関する規程は、別に定める。 <u>（運営委員会）</u>	（運営委員会）
第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。	第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2 運営委員会に関する規程は、別に定める。	2 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。
第8条 省略	第8条 同 左
第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、学長が別に定める。	第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、学長が別に定める。
――――――――――――――――――――――――	<u>附 则</u> この規程は、平成12年4月1日から施行する。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程の一部改正新旧条文対照表

現 行	改 正
（趣旨）	（趣旨）
第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規程第48号）第7条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。	第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則（昭和62年岡山大学規程第48号）第7条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。
第2条～第6条 省略	第2条～第6条 同 左
――――――――――――――――――――――	<u>附 则</u> この規程は、平成12年4月1日から施行する。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程の一部改正新旧条文対照表

現 行	改 正
(趣旨)	(趣旨)
第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規程第48号）第2条の2第3項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関する、必要な事項を定めるものとする。	第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則（昭和62年岡山大学規程第48号）第2条の2第3項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関する、必要な事項を定めるものとする。
(審議事項)	(審議事項)
第2条 委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係る点検及び評価の実施に関し、必要な事項を審議する。	第2条 委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係る点検及び評価の実施並びにその結果の公表に関する事項を審議する。
第3条～第7条 省略	第3条～第7条 同左 附 則 この規程は、平成12年4月1日から施行する。

2. 岡山大学津島地区東北隅地域の遺跡保護について

津島地区東北隅地域に遺跡保護区を設けることが1999年5月17日開催の運営委員会および、9月29日開催の管理委員会で決定され、12月22日の施設設定委員会において施設長期計画配置図に同保護区の範囲（約17,000m²）を明示することが了承された。

岡山大学津島地区東北隅地域の遺跡保護について

平成11年9月29日 第29回埋蔵文化財調査研究センター管理委員会

1. 津島地区東北隅地区の遺跡の内容と特色

（1）各時代の遺構が重複 岡山大学津島地区東北隅の馬場を中心とした地域は、工学部校舎、環境理工学部校舎、大学院自然科学研究科棟、サテライトベンチャービジネスラボラトリ一棟の建設に伴う発掘調査および平成10年度に行った試掘調査等により、縄文時代の集落関係遺構、弥生時代から古代・近世に至るまでの水田遺構等が特に良好な状態で重複し埋没していることが判明している。

（2）農耕開始の歴史を解明 この地域のすぐ北には縄文時代の貝塚として著名な御寝鼻貝塚があり、本学東北隅地域の遺跡はこれと密接に関連している可能性が高い。とりわけ縄文時代後期（約4000年前）から弥生時代早・前期（紀元前500—300年）の造構・遺物は、日本における農耕の起源と先民の歴史をたどるうえで重要である。

2. 遺跡保護の方法

津島地区東北隅地域の遺跡は、多くの時代の遺構が重複し、各時代とも遺構の密度が濃く、発掘調査には多大の経費と期間を要する。また仮に建設工事のために発掘調査を行った場合でも、国や県・市の指定史跡となるような重要遺構が発見されて建設工事が不可能となるような事態も予想されないではない。したがって東北隅地域の特に重要なと思われる範囲については、今後、地下遺構の損壊に至るような施設の計画を行わないよう学内関係部局・関係委員会等の協力が要請される。また、津島長期計画書の計画施設配図修正版には、遺跡保護区を明示することが望まれる。

遺跡保護区においては、馬場など現存施設を現状のまま使用することはさしつかえないが、将来においては遺跡公園として整備し、学内での研究・教育や地域の生涯学習の場として活用することが望ましい。

3. 津島地区東北隅地域における遺跡保護区の範囲

津島地区東北隅地域における遺跡保護区は、別紙の図の通りとする。（約17,000m²）。

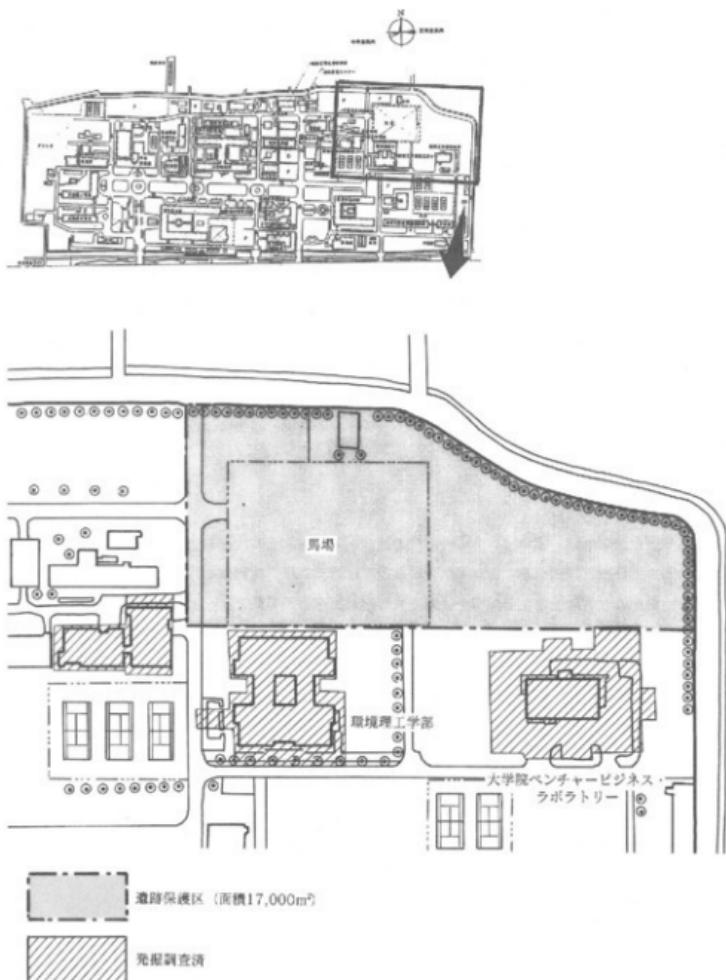


図25 津島地区東北隅地域における遺跡保護区の範囲

3. 岡山大学学内共同利用施設における助手の任期に関する規程 (1999.3.25岡山大学
規程第3号)

1999年9月21日・10月19日に開催された運営委員会での協議、10月27日開催の管理委員会での審議を経て、11月24日開催の評議会において決定され、以後採用予定の助手については任期3年、再任可（原則として1回）という条件で任期制が付されることになった。

岡山大学学内共同利用施設における助手の任期に関する規程

[平成11年3月25日]
[岡山大学規程第3号]

(目的)

第1条 大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号。以下「法」という。）第3条第1項の規定に基づき、岡山大学学内共同利用施設における助手の任期に関する規程を定める。

(学内共同利用施設の定義)

第2条 この規程において「学内共同利用施設」とは、各学内共同教育研究施設並びに保健管理センター、R I 共同利用評議会施設、環境管理センター及び埋蔵文化財調査研究センターをいう。

(教育研究組織等)

第3条 任期を定めて任用する助手は、別表に定めるとおりとする。

(同意)

第4条 任用に際しては、文書により、任用される者の同意を得なければならない。

(周知)

第5条 この規程を定め、又は改正したときは、岡山大学学報等により、広く周知を図るものとする。

(細目)

第6条 この規程に定めるものほか、この規程の実施に関し必要な事項は、評議会の議を経て、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行し、同日以降に任用される者について適用する。

附 則

この規程は、平成11年11月25日から施行し、改正後の別表中埋蔵文化財調査研究センターの項に係る部分は、同日以降に任用される者について適用する。

別表 法第4条第1項第2号の規定に基づき任期を定めて任用する助手（第3条関係）

教育研究組織	任期	再任に関する事項
総合情報処理センター・研究開発室セキュリティ技術部門	5年	再任不可
遺伝子実験施設・遺伝子応用学部門	5年	再任不可
埋蔵文化財調査研究センター	3年	再任可（原則として1回）

4. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項

1999年度に埋蔵文化財調査研究センター内で検討してきたものを、2000年4月6日開催の運営委員会で協議し、5月15日付で下記の通り制定された。

岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長

施設部長

I 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注意すること。
3. 工事用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守されること。

II 発掘現場で注意すべき事項

1 服裝・装備・用具等

- 1) 安全で機能的な服装にする。
- 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
- 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
- 4) グライダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 5) スコップ・草刈りなどの用具は、危険がないように使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

2 掘削

1) のり面の角度

造成土：通常の土壤の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。

堆積土：基本的には75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の壁際を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。
その場合の段の巾は、60cm以上とする。

2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。

なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

3 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には安全帯を使用する。
- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。
- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

4 発掘用機械類の操作

（ベルトコンベア・ポンプ等）

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。
- 2) ベルトコンベア・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。
- 3) ベルトコンベアを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないような措置をする。
- 4) 原則としてベルトコンベアの直下での作業・通行を避ける。
- 5) ベルトコンベアの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

（重機関係）

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。
- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。
- 3) 疊重時は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

5 健康管理

- 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

III その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。
- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2の1)～3)どおりに発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

以上

第4章 1999年度業務のまとめ

1999年度は、当初センター長以下、助手7名、技術補佐員2名の体制でスタートした。6月1日付けで助手1名が助教授に昇進となり、センター設立以来の要求事項であった専任ポストが承認されたという、体制上の大きな変化があった。

今年度の発掘調査も、昨年度同様、ほぼ切れ目なく実施された。まず津島地区においては継続事業である第22次調査と、第23次調査の2件を実施した。22次調査では、期待された繩文時代後期の微高地の集落域にはあたらなかったが、微高地から河道にかけての状況について有益な情報が得られた。第23次調査は津島北地区の南西部において初のまとまった面積の調査である。近世～中世の耕作関連遺構等が検出され、2000年度に継続されている。

鹿田地区では、昨年度からの継続事業である第9次調査を5月まで実施し、その後も鹿田キャンパスの南東部において、共同満敷設に伴う第10次調査及び病棟Ⅰ期工事追加分となる第11次調査を実施した。11次調査は病棟建築計画の変更に伴って9次調査を外側に拡大した部分に対して実施したものであり、両調査地点の合計面積は4600m²となった。この両調査では、特に弥生時代後期頃の水田遺構を検出したことが注目される。これまで判明していた集落域と併せて、生産域がその南に広がることが確認され、鹿田遺跡における土地利用に対する重要な情報が得られた。また中世段階においても、東西・南北それぞれの溝を区画とする集落の在り方が明らかとなってきており、今後出土遺物等の分析も含めて総合的な検討が期待される。

試掘調査は2件を実施した。1件は前述の津島岡大遺跡第23次調査に伴うものであり、もう1件は工学部内の小規模な仮設建物建設に伴うものである。後者においては津島北地区に保存されている山塊周辺の地形についての知見が得られた。

立会調査は津島・鹿田地区あわせて、42件の事業について実施した。若干の連絡不行き届き等もあったが、全体として迅速な対応が図られ、構内各地で有益な知見が得られた。

室内の整理作業の成果としては『福呂遺跡Ⅰ』の報告書の刊行がある。三朝地区の固体地塊センター実験研究棟の発掘調査成果をまとめたものである。定期刊行物として構内遺跡調査研究年報16、センター報22・23号を刊行した。その他遺物の基盤整理作業及び2件の調査に対して報告書刊行に向けた資料整理を実施した。木器保存処理については第3期分を終了し、第4期分を開始した。

今年度は発掘調査5件（うち1件は次年度に継続）、試掘調査2件、立会調査42件の実施、1冊の報告書の刊行と、充実した業務内容であったと言えよう。今後も学内外を問わず調査成果の公開・普及・啓蒙活動を積極的に行い、埋蔵文化財に対する更なる理解を得たい。（岩崎）

附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査(1980~1982年度)

年度	遺跡名 調査地区名	種類	所属	調査名称	調査組織	調査面積(m ²)	文献	備考
1980	鹿田	立会	商	同附属病院棟新設	岡山市教育委員会	8		
1981	津島南 BD26	"	農	省宿舎新設	"			
	津島北	"	文法	合併処理槽増設	"			
	津島北	"	文法	合併処理槽増設	"			
	津島南 BD09	"	基幹整備(共同蔵取付)	"				
	BD09~11	"						
	津島南	"	陸上競技場改修 (配水管埋設)	"				
	BD~BD04~07	"						
	鹿田	"	医病	高気圧治療室新設	"			
"	"	"	動物実験施設新設	"	岡山市教育委員会			試掘調査をせず破壊存盤面等の調査
"	"	"	病理解剖休憩器処理保管 庫新設	"	岡山市教育委員会			
"	"	"	運動場改修	"				
1982	津島 AV06~10 AW05~14 AX08,BD07 BE10	試掘		排水基幹整備	"			津島AW14区で弥生時代包含層確認、協議
	小橋法目黒 津島北 AW14	発掘	文法	配水管集中槽(SP-1)埋設	岡山大学	24.0	③	(津島岡大第1次調査)
	津島南	試掘	学生	武道館新設	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北 AY15~16	"	法務	校舎新設	"	7.0		
	鹿田	"	医	標本保存庫新設	岡山県教育委員会	8.0		
"	"	医病	外来診療庫新設	"	岡山県教育委員会	4.0	2	
"	"	立会	医	動物実験施設関連排水 管・ガス管埋設	岡山県教育委員会		1	
	鹿田 AE~AY22 AZ22~26	"	農	電話ケーブル埋設	"			
					岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化財調査室			

※文献1 光永貞一「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新設工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

2 河本 清「岡山大学医学部附属病院外來診療庫改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

③ 番号は附表3の番号に対応する。

附表

附表2 1998年度以前の構内主要調査(1983~1998年度)

附表2-(1)発掘調査

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名稱	調査期間	面積(cm)	概要	文献
2	1983	9	鹿田	AU~BD28~40	医病	外来診療棟新宮 (鹿田第1次調査)	7.27~11.22 '84.1.9~ 8.31	2188	弥生時代中期後半~中・近世集落址	⑦
3	1983	10	鹿田	BG~B118~21	医病	NMR-C T家新宮 (鹿田第2次調査)	8.1~12.30	176	弥生時代後期~中世集落	⑦
10	1983	11	津島南	BE14~18 BF17~18 BG14 BH14~15	農	排水管理設 (津島岡大第2次調査)	'84.1.9~3.5	265	弥生時代早・前期無落址	④
10	1983	12	津島南	BH13	農	合併処理施設 (津島岡大第2次調査)	11.14~11.22 '84.1.9~3.5	276	弥生時代早・前期集落址	④
31	1986	1	鹿田	CN~CZ7~28 CT~CZ9~27 CX~D16~25 DD~D22~23	医歯	校舎新宮 (鹿田第3次調査)	6.2~11.29	2390	古代~中世の集落址	⑨
36	1986	2	津島北	AV00 AW00~01	学生	男子学生寮新宮 (津島岡大第3次調査)	12.1~'87.6. 18.8.24~9.5	1550	縄文時代後期~弥生時代早期の河道、弥生時代の集落址、古代~近代の水田址	⑨
38	1986	3	津島南	BF~BG09	学生	尾内運動場新宮 (津島岡大第4次調査)	'87.1.19~ 1.22	70	弥生時代前期の溝、中世河道	⑥
52	1987	2	鹿田	BD~BH35~42	医病	管理棟新宮 (鹿田第5次調査)	10.6~ '88.3.2 '88.3.23~ 3.31	1192	弥生時代中期後半~中・近世の集落址	⑧
54	1987	3	鹿田	DD~DF25 DG~D27~28	医歯	校舎周辺の配管 (鹿田第4次調査)	11.2~11.21	30	古代の河道	⑩
65	1988	1	津島北	AY06~08 AZ06~07	大自	自然科学研究科棟 (津島岡大第5次調査)	6.27~ '89.3.19	1537	縄文時代後期~弥生時代早期の貯蔵穴と河道、弥生時代~近世の水田址	⑪
67	1988	2	津島北	AV~AW04~05	土	生物応用工学科棟 (津島岡大第6次調査)	9.20~ '89.5.31	600	縄文時代後期~弥生時代早期の貯蔵穴と河道、弥生時代~近世の水田址	⑫
70	1988	3	津島北	AV~AW05~06	工	情報工学科棟 (津島岡大第7次調査)	10.12~ '89.3.31	800	縄文後期~弥生時代早期無落址。弥生時代~近世水田址	⑬
65	1990	1	津島北	AY~AZ08	大自	自然科学研究科棟 (津島岡大第5次調査)	4.3~4.21	90	古墳時代後期の溝	⑭
92	1990	2	鹿田	BH~CC07~71	ア	アイソトープ組合センター (鹿田第5次調査)	11.20~ '91.6.301	690	弥生~古墳時代の溝、土礫、縄文時代の井戸・建物群	⑮
96	1991	2	津島南	BD18~19	農	遺伝子実験施設(津島岡大第8次調査A地点)	7.23~12.25	650	縄文時代の土壌・土器・石器他。弥生時代~近世の溝等	⑯
96	1991	3	津島南	BH13	農	(合併処理槽)(津島岡大第8次調査B地点)	7.23~12.2	140	弥生土器・石器他。古代~近世水田	⑰
104	1992	1	津島北	AU~AW04	T.	生体機能応用工学科棟 (津島岡大第9次調査)	7.1~ '93.1.29	650	縄文時代後期~弥生時代早期の貯蔵穴と河道、弥生時代~近世の水田址	⑯
108	1992	2	津島南	BB~BC10~11	保	保健管理センター (津島岡大第10次調査)	'93.2.1~ 3.31, 4.17~ 7.31	400	弥生時代後期土塹等。弥生~古墳時代井戸・1層、古墳時代住居址、近世耕地、野塙ほか	⑯ ⑭
115	1993	2	津島北	AV~AW11~12	情	総合情報処理センター (津島岡大第11次調査)	9.14~ '94.1.11	640	縄文後期~弥生前期窓堅穴状遺構。弥生中期水田址、古墳時代水田址ほか	⑯

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	調査期間	面積 (m ²)	概要	文献
127	1993 1994	1	津島北	AV～AW13～14	国	西海岸 〈津島岡大第12次調査〉	94.2.9～ 3.31 4.1～11.30	1472	绳文時代土坑、弥生時代～古墳時代溝水田柱群、古代溝、駐野、中世溝ほか	◎
134	1991 1995	2	津島北	AW～AX11～12	事	福利厚生施設北側 〈津島岡大第13次調査〉	10.6～11.30 '95.7.10～ 10.4	816	绳文時代後期ピット、弥生時代水田、弥生～古墳時代溝、近代工作面	◎
144	1995	2	津島南	BP～BC12～13	事	福利厚生施設南側 〈津島岡大第14次調査〉	10.25～2.14	856	弥生時代の水田、弥生～古墳時代の溝、土坑	◎
147	1995 1996	3	津島北	AW00～01	サ	サテライトベンチチャーピ ジネスラボラトリ－新常 〈津島岡大遺跡第15次調 査〉	96.1.16～ 4.25	1600	绳文後期の貯蔵窓、堅穴住居・炉・ピット・土坑、河道、弥生早期の貯蔵窓、河道、弥生時代の水田・溝	◎
153	1996	2	津島南	BD19～20	農・ 業	動物実験棟新益 〈津島岡大遺跡第15次調査〉	96.5.7～15	30.3	A地点：绳文時代と古墳時代の土坑、B地点：中世の溝、古代の柱穴列、弥生時代の水田	◎
154	1996	3	津島北	AN02～04	森	環境理工学部新常 〈津島岡大遺跡第17次調査〉	96.5.21～1.9	1451	古代の水田、弥生時代の溝、水田、绳文時代後期の生活址・ピット群・土坑	◎
173	1997	1	三朝		国	史実研究棟新宮その他の工事 ・本体工事部分 〈福島遺跡第1次調査〉	97.5.10～ 5.20, 7.28～ 31	269	绳文時代早期・弥生時代中期・中世包含層、遺構確認。	◎
174	1997	3	三朝		国	史実研究棟新宮その他の工事 ・平成アーバン部分調査 〈福島遺跡第2次調査〉	97.11.25～ 12.5	120	近世・中世・古代の包含層、遺構確認。	◎
175	1997 1998	4 1	鹿田	BR55～BX61・ BT56～57PK	国	基礎筏字接新宮 〈鹿田遺跡第7次調査〉	98.2.27～8.6	829	古墳時代初期の住居・掘立柱建物等、中世の溝、ピット群・井戸、近世の水田、露木廓庭、中世杉木製品出土。	◎ ◎
186	1998	2	津島南	BB11	事	福利施設(南)新宮に伴うポンプ排水設工事に伴う調査 〈津島岡大遺跡第18次調査〉	98.4.7～4.10	16	古代の溝状遺構	◎
187	1998	3	津島北	AZ09～10	理	コラボレーションセンタ ー新宮に伴う調査 〈津島岡大遺跡第19次調査〉	98.7.27～ 99.2.18	1019	绳文後期遺跡、弥生前期の両道、古墳時代の溝群、近世道路状遺構、溝	◎
188	1998	4	鹿田	BP～BS30～32	医病	R I 治療室新宮に伴う調査 〈鹿田遺跡第8次調査〉	98.7.2～9.1	156	古墳時代溝、中世溝	◎
189	1998	5	津島北	AY07	理	校舎(Ⅰ期)新宮に伴うポンプ排水設工事に伴う調査 〈津島岡大第20次調査〉	98.10.19～28	16	黒色土上面溝、ピット、中世溝	◎
190	1998	6	津島北	AX09	工	エレベーター設置に伴う調査 〈津島岡大遺跡第21次調査〉	98.11.6～24	30.2	绳文時代中期土坑、弥生時代早期～前期溝、古代土坑、溝確認。绳文後期石包丁状石器1点出土。	◎
191	1998	7	鹿田	CD33～37, CE・ CF28～37, CG ～CJ20～37, CK・CL25～37	医病	病棟新宮に伴う調査 〈鹿田遺跡第9次調査〉	98.11.27～ 99.5.11	2088	弥生時代水田柱群、溝、古代耕作痕、中世溝・井戸、柱穴群、土壌草、近世溝・井戸・土坑を確認、墨書きのある坑、況符木簡	◎

附表

総合 番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	調査期間	面積 (m ²)	概 要	文 献
192	1998	8	津島北	AW02・03	農	校舎(丁期)新宮に伴う 調査(津島同大遺跡第22 次調査)	99.3.1~7.12	773. 5	縄文後期河道・土坑・ビ クト群、弥生時代河道、 水田跡群、古墳時代溝、 水田跡群、中世溝、近世 溝、上流を確認	⑤

附表2-(2) 試掘調査

編	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	掘削深度	造成土厚	概 要	文 献
4	1983	1	津島	BH13	農	合併処理施設予定地	2.5		弥生時代前期土器片 ('83年度発掘)	①
5	1983	2	津島	BH17	農	排水管中間ポンプ施設予定 地	3.5			①
8	1983	3	津島南	BE~BG14 BH~BH15 BE18 BF16~18	農	排水管埋設予定地	2.0		29ヶ所で試掘。弥生 時代前期土器片 ('83年度発掘)	①
11	1983	6	津島	AW05	工	校舎新設予定地	3.0	1	土器片出土	①
12	1983	5	津島南	BC~BD15	事	大学事務局新設予定地	2.0~3.0	0.9	土器片出土	①
13	1983	6	津島南	BE10	保	保健管理センター新設予定 地	2.0~3.0	0.8	調査出	①
14	1983	4	津島南	Br22~23	農	農場倉庫新設予定地	2.0~3.0	0.6	土器片出土 (1987年度工 事立会)	①
15	1983	7	津島	BI16	事	津島宿新設予定地2.0	0.9	0.9	土器片出土 (1987年度工 事立会)	①
21	1984	1	鹿 山	BL30~31	医病	西病院北側受水槽予定地	1.4	0.5~0.7	中世土器・包含層確認 (盛土保存)	②
22	1984	2	鹿 山	CT-CU25 CZ19~20-23~ 24	医病	西病院初期大学部校舎新設 予定地	2.7	0.8~1.0	中世・古代の遺物出土 (1986年度発掘調査)	②
23	1985	3	津島北	AV~AW99~01	学生	男子学生寮新設予定地	2.0~3.0	1	縄文時代~中世の遺構・ 遺物 (1986年度発掘調査)	③
24	1985	2	津島北	AX02	教育	研究棟新設予定地	2.6~3.4	1.2	縄文~弥生時代土器出土	④
25	1985	1	津島南	BK08	教養	講義棟新設予定地	3.5	1.2	遺構・遺物未確認 (1986年度工事立会)	④
29	1985	4	鹿 山	AJ33 AJ40 AJ~AK26	医病	外次診療環境整備工事 に先立つ範囲確認調査	2.2~3.0	0.9~1.4	弥生時代~中世の遺物	⑤
35	1986	3	津島南	BF~BG09	学生	寮内運動場新設予定地	2.4 1.2~1.7	1.1	弥生時代前期溝・中世河 道発見 (1986年度発掘調 査)	⑥
37	1986	4	津島北	AY~AZ07	大自	自然科学研究棟新設予 定地 (1988年度発掘調査)	1.6~3.2	0.6~0.8	縄文時代中期末~後期の 遺構・遺物 (1988年度発 掘調査)	⑥
45	1987	4	土 牛	AP02	事	外国人宿舎建設予定地	2.2~2.8		近世・弥生時代・縄文時 代の遺構面確認	⑧
46	1987	5	津島北	AV11	情	総合情報処理センター新 設予定地	2.0~3.0	2	黒色土を標高2.2m前後 で確認 (1993年度発掘調 査)	⑧
48	1987	6	津島北	AY09	理	身体障害者用エレベー ター建設予定地	3.0~3.5	約1.0	近世・中世の遺物 中世・ 古代の木柱址 (確認して 発掘調査に及ぶ)	⑨
49	1987	7	津島南	BD09	教養	身体障害者用エレベー ター建設予定地	2.5	0.7	縄文時代土塹群を確認 縄文・中世・近世土器出 土 (確認して発掘調査に 及ぶ)	⑨

附 表

都	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名稱	掘削深度	造成土厚	概要	文献
61	1988	17	津島北	A04-05 AW04	工	校舎建設予定地	2.0~3.5		黒色土を標高3.3m弱で確認。溝状遺構・木田塗検出。縄文～近世土器出土。(1988年)	⑩
62	1988	19	津島南	BD18-19	農業	動物実験施設等及び遺伝子実験施設	2.3	1.1~1.2	黒色土を標高約2.3mで確認。溝状遺構・縄文～中世遺物検出。	⑩
63	1988	20	津島南	BC29	事	国際交流会館	2.5	1.2	近世・中世の遺物出土。(1988年度工事立会)	⑩
77	1989	3	津島北	AZ17	大白	合併処理施設予定地	4.0	1.6~2.0	中世～明治の水田の柱跡・溝。(1989年度工事立会)	⑩
78	1989	4	津島南	BD02	学生	学生合宿所予定地	2.0~3.2	1	弥生時代早・前期の柱跡。(1989年度工事立会)	⑩
79	1989	2	津島南	AZ-B405	教育	身体障害者用エレベーター	2.5	0.8	縄文時代後半牛糞時代早期の落込み。属文化時代後期～中世土器群。(小説模写権、面積38.5m ²)	⑩
83	1989	5	津島北	AV-AW13	國	図書館新館予定地	3.0	1.4~1.6	古代水田。弥生～古代の前。(1983～1994年度発掘調査)	⑩
87	1990	3	津島南	BC02	学生	学生合宿所ボンブ禮予定地	2.5	1.1	弥生時代前期柱跡、中世土器群	⑩
89	1990	4	合敷地区		資生	資源生物科学研究所遺跡確認調査	2.5	0.7	中世後半以降の土器片	⑩
90	1990	5	裏田	BY-BZ68	ア	アイソトープ総合センター予定地	2.3	1.2~1.3	中世土器質土器など。(1990・91年度発掘調査)	⑩
91	1990	6	津島北	AW-AK11	事	福利厚生施設予定地	3.9	1.4~1.6	弥生～古墳時代の溝、中世土器片	⑩
121	1993	3	津島南	BE～BF・22～23	農	農学部畠用耕地実験実習施設	1.5		中～近世耕土	⑩
136	1994	3	津島南	BD20	農業	動物実験施設	2.0	0.9	GT-1.4mで黒色土、縄文土器一点	⑩
140	1995	4	津島南	BE26	事	国際交流会館新館予定地	4.1~2.4	1.6	造成土以下、明治・近世・中世と見われる土層確認。以下は深め地状。出土遺物なし。遺構は明治の鉄のみ。	⑩
146	1995	5	津島北	AW02-03	國	環境理工学部新館	2.4	1.2	標高3.2mで黒色土上面。弥生時代の溝状遺構検出。	⑩
150	1995	6	津島南	BF07	学	ボタシング部ボックス移設	96.3.18	3	標高2.5mで褐色土層認。弥生～古墳時代の溝2条、古代溝1条確認。	⑩
176	1997	5, 二 6			國	実験研究棟新館工事に伴う試掘調査	1.66~2.1	0.8	TP 1では-1.4 mでシリ質の層、以下砂層がタミナ状に堆積。TP 2では弥生・近世の2枚の黒色層	⑩
177	1997	8	鹿田	BT57	民	基礎吹抜検査	2.2	0.9	中世・弥生時代の包含層を確認。	⑩
193	1998	9	津島北	AZ09	國	コラボレーションセンタ一新館に伴う試掘調査	2.7~3.4	1.3	標高2.7 mで黒色土。弥生中期の回道、弥生時代以降の溝確認。	⑩

附表

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	掘削深度	造成土厚	概 要	文献
194	1998	10	津島北	AZ02・03	医 痘	校舎(Ⅱ期)新宮に伴う 調査	4.5	1.2	2.1mで黒色土。古代～ 古墳時代の構確認。	③
195	1998	11	鹿 田	CF-CG43-44, CH25・26, CK 35・36, CK15	医 痘	病棟新宮に伴う調査	2.0～2.4	1.0	4ヶ所。中世2箇、近世 の遺構面を確認。中世段階 は遺構密度が高い可能性。 古墳時代以前について は未確認か?	③
196	1998	12	倉 敦 地 区		資生 研	バイオ実験棟新宮工事に 伴う調査	1.5	0.4	近世干拓地内。遺構未確 認。	④
197	1998	13	津島北	AW04	T.	システム工学科棟新宮に 伴う調査	2.8	1.0	1.8mで黒色土、绳文後期 の遺構確認。	⑤
198	1998	14	津島北	AU02, 03-06, AV03	事 勤	遺跡保護区整備に伴う調 査	2.4～3.8	0.8～1.6	TP 1, 3, 5は高湿地 状、TP 2, 4は低湿地 状。TP 1で弥生層、T P 3で弥生層・ビット、 TP 4で中世層。	⑥

附表2—(3) 立会調査

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	掘削深度	造成土厚	概 要	文献
1	1983	13	東 山		教育	附属中学校新宮	4.0～5.0		シルト層中	①
6	1983	23	鹿 田	AD～AW22	医病	外來診療棟換気配管埋設	1.3		弥生時代後期土器・分銅 ・形土埴輪・貝塚積	①
20	1984	20	津島南	BI15～17	事 勤	南北合併処理槽関係配 水管埋設	1.0～2.2	1.0	唐・土構複合・赤生土器・ 須恵器	②
26	1985	6	鹿 田	AW～ BH23 BH-BI24	医病	外來診療棟関係屋外排水 埋設	1.3～1.7 0.7～1.3		中世・赤生の遺構・遺物 を確認。	⑤
30	1985	12	鹿 田	AG31 AG24 AF23	医病	基幹埋設管偏移化工事 電気配管ハンドホール埋 設	1.2～1.7 0.9～1.3		中世包含層・ビット。	⑤
33	1986	12	津 島	BE08-09	教養	校舎新宮	2.3	1.3	中近世の溝・土器。	⑥
40	1986	21	津島南	BG08	学生	ハンドボル・ルコット新設	0.2～2.0	0.8	黒色土確認	⑥
42	1986	24	鹿 田	CI～CR12 CR～CX13 CX～DA14	医病	廻廊及び回廊工事	2	0.8～1.0	中世包含層	⑥
43	1986	26	津 島	BF07-08	教養	校舎新宮に伴う電気配管	1.8	0.9	中世包含層	⑥
44	1987	8	鹿 田	BC37	医病	管理棟新宮に伴う基礎杭 確認	2.5		弥生時代包含層・遺構確 認。	⑥
66	1988	17	津島南	BG10-11	教養	テニスコート夜間照明施 設	2.2	1.5	黒色土を表土下約2mで 確認。西に向かう落ちを 推定。	⑩
74	1989	8	津島北	AZ08	大白	自然科学研究科棟新宮 工事用道路	1.4		弥生時代後期水田・溝確 認。	③
75	1989	10	津 島	AU05	T.	校舎新宮に伴う電柱架設	1.9	1.0	黒色土確認	③
80	1989	46	鹿 田	CE30-37-44 CI-CI45 CL28-29	医病	旧竹道復路地盤強化整備 外灯基礎埋設	1.2～1.5 0.7～1.0		中世層を確認。	③
85	1990	16	津島北	AV04～10		岡山市道本町津島東線拡 幅に伴う補償工事 I 電 柱設置	0.4～3.0 0.6～1.4		5ヶ所。黒色土層。 朱里跡。(1989年度試掘 調査)	⑩
88	1990	20	津島北	BC02～04 BD03-04	事 勤	岡山市道本町津島東線拡 幅に伴う補償工事 I 学 生合宿所給排水管設置	2.3	1.2	GL-2.3mで黒色土確認。	⑩

附表

施	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
95	1991	9	津島	BC18	遺	防火用櫓去	2.0	0.8	基盤層まで掘削。石礫出土。	◎
99	1991	17	津島南	BB16	事	津島地区基幹整備(電気)ハンドホール・アース板設	1.7~1.8	0.5	明治層~淡灰色粘土層	◎
101	1991	19	津島北	BD15	事	津島地区基幹整備(電気)アース板設置	1.7	1.0	GL 1.5mで黒色土上	◎
102	1991	40	津島南	BC-BG-BF12	事	南北道路街灯設置	1.5		3ヶ所、GL-1.4mで古代層確認	◎
105	1992	15	津島南	BD18-19	遺	遺伝子実験施設ハンドホール設置	0.7~1.5		8ヶ所のうち1ヶ所のデータ有効。GL-0.75m~1.1mで明治層上面、馬文後期層まで、病2本検出	◎
107	1992	28	鹿田	BU65 BU-BG68 BC67 72 BW-CAT1	ア	アイソトープセンサー集水井・ヒューム管設置	1.4~1.5		GL-0.9mで明治層上、中性溝1	◎
110	1992	34	津島	AV12	事	附属団体駄北側駐車場整備	3	1.7	造成土以下粘土層	◎
113	1992	41	鹿田	CI73	医	テニスコート脇電柱基設	1.2	1.0	古代土層1点	◎
118	1993	17	津島南	BB~BC-10~12	保	保健管理センター新宮に伴う外壁工事ほか電気配線	1.8	0.6~0.7	明治層以下保健管理センター木調査と同じ層序、黒褐色土は-1.15~1.7m、その直下に基盤層	◎
119	1993	23	津島北	BA07	事	津島地区基幹整備 R I 共同利用施設給水処理施設地設置	3.2		明治~中世層 黒褐色土層確認 古代溝?; 馬文晚期? 土器片	◎
120	1993	28	津島南	BD~BE13	事	津島地区環境整備 南北道路沿い水路ボックスカルバート敷設	1.5	1.0	明治層、中世~近世層を確認	◎
122	1993	39	津島南	BB05~07	学生	野球場バッケネット・防球ネット改修	2.0~3.2	1.0	-1.2~2.0m付近で黒色土を確認; 以下は黄色砂~青灰色粘土	◎
124	1993	33	津島南	BB~BG-12~13	事	津島地区環境整備 水銀灯設置	1.8	0.5~1.2	10ヶ所。近世~中世層まで掘削。一部で暗褐色土層を確認	◎
125	1993	17	津島南	BB11	保	保健管理センター新宮に伴う旧棟改修・電気配線	1.1	0.8	明治層、確認 甌生土器片	◎
126	1993	34	津島南	BD~BE12~13	事	津島地区環境整備信号機改設	1.6	1.0	明治層以下、近世から中世層、一部で暗褐色土層。	◎
129	1994	5	鹿田	DB60~62	医	灘岸改修工事1.5	1.5	0.8	造成土以下茶褐色、近世? 層各一層。以下はすべて遺構埋土の可能性あり。病3条、ビット9確認。	◎
131	1994	9	津島南	BD-BE-BF04~07	事	陸上競技場肥料剝引設置	2	0.96	施肥ボール(径80cm×深さ10m)オーバー掘削。GL-1.92~2.00mで黒色土	◎
133	1994	13	津島北	AV10-AW10-AU11	情	総合情報処理センター新営電気工事	2.2	1.5	明治1面、近世2面。中世(近世か?)1面。近世層確認 GL-1.70mで黒色土確認。	◎
137	1994	20	津島	BD20	農	焼却場	2.2	1.5	GL-1.9mで黒色土確認。	◎
141	1995	11	鹿田	BP17~18	医病	鹿田地区基幹整備附属病院連絡道路新設	1.5	1.0	造成土以下茶褐色土、青灰色粘質土層、遺物なし	◎
145	1995	14	鹿田	CD07~08	医病	鹿田地区基幹整備液貯タンク設置工事	2.3	1.0	小世遺構面2面確認。病3条確認。中世革巻形がしっかりしている。調査から中世・古代の土器器出土。	◎

附表

総	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	掘削深度	造成土厚	概 要	文献
148	1995	17	鹿 田	CC・CD08~10	医病	鹿田地区茶臼整備附属施 工事	1.23	0.85	包含層確認。中世の七器 陶片採集。既設管、基礎 などで遺存部分は区間全 長の1/2程度	⑧
149	1995	23	鹿 田	DF56~67	区	防球ネット取設工事	3	0.8	径60cmを12箇所、4箇所 で土器片、石器の採取あ り。調査区西寄りは、GL-2 m以下が旧河道か。	⑧
152	1996	4	津島南	BC18	農・ 漁	動物実験棟新営に伴う造 成土取り	2.2	1.9	黒色七層付近まで掘削	④
155	1996	5	津島南	BD16~19	農・ 漁	動物実験棟新営に伴うハ ンドホール設置工事	1.3		4ヶ所。造成土以下5層 確認	④
160	1996	12	津島北	AV02, AV03, AV04, AV99, AW02, AW04	サ	サテライ・ベンチャービ ジネスラボラトリー新営 外灯設置工事	1.0~1.5	0.76~ 1.1	6ヶ所。明治層2面、近 代層2面、中世層1面。 弥生層? 1面確認	④
161	1996	13	津島北	AV03~AW03	サ	サテライトベンチャービ ジネスラボラトリー新営 排・配管設置工事	2	0.95	弥生時代の層まで掘削。 古墳時代前期の遺構・遺 物確認	④
164	1996	18	津島北	AW03	環	発光堆工学部新営子定地 電柱設置工事	2		黒色土まで掘削	④
169	1996	25	津島北	AV13	区	附属図書館新営雨水構・ 外構工事	1.3	1.0	造成土以下、青灰色粘質 土、黄褐色粘質土、灰褐色 粘質土と確認	④
178	1997	9	三 朝		固	実験研究棟新営に伴う築 壘部分	0.5		斜面部分にトレンチ3カ 所。地山確認。	④
179	1997	10	三 朝		固	実験研究棟新営に伴う築 壘工事部分	4.0	1.5	GL-1.5mで包含層確認。 弥生七層片採集。	④
180	1997	11	一 朝		固	実験研究棟新営に伴う本 体工事部分	2.0~2.5		工事範囲内未調査のうち に1/2掘削。盤面で 遺構確認。	④
181	1997	16	津島南	BB13~BB13	市	南北道路ガス管理設工事	1.5		中世層まで掘削。	④
182	1997	18	三 朝		固	実験研究棟新営に伴う電 気管設置工事	1.0		1.0で中世層、包含層は東 に向かい上面レベルが上 昇。	④
183	1997	19	津 島		市	南北道路ガス管埋設工事	1.5		中世の粘土層検出。	④
184	1997	24	津島南	BC12	市	福利厚生施設新営に伴う 共同調査新設工事	2.0	0.8	GL-1.65で風化土確認。近 代・中世・古代・古代 の層確認。	④
185	1997	29	東 山		教	教育都市付属小・中学校 他附属施設工事	1.2	0.79	GL-1.1で水田確認。崩 1 条。	④
199	1998	15	津 島	BA09	事	構内内外灯設置工事	1.47	1.0	GL-1.42で黒色土上面	④
200	1998	22	津島北	AZ09, BA09	理	コラボレーションセンター -支那配管新設工事	1.4	1.0	1.4で黒色土上面	④
201	1998	24	津 島	BB12, BC12	市	南福利街灯設置工事	1.4	0.95	中世層まで掘削	④
202	1998	31	津島北	AX03, AY06	環	校舎新営に伴うガス管 設工事	1.2~1.4	0.65~ 0.95	中世層まで掘削	④
203	1998	34	津島南	BC10	事	学生会館改修に伴うトラ ップ廻避工事	2.2	1.45	GL-1.7mまで灰褐色粘土 層、2.2mまで青灰色粘土 層	④
204	1998	35	津 島	BA00	事	N T T 電柱移設工事	1.5	0.9	造成土以下、褐色系粘土 土	④
205	1998	36	鹿 田	BV73 CN78	医	校舎新営に伴う板設電柱 工事	1.2	1.0	中世層まで掘削	④
206	1998	31	津島北	AX03~AY07	環	実験排水管設工事	1.4	0.6~1.4	9地点のうち5地点で中 世層まで、2地点で古代 層、1地点で古墳時代層 まで掘削	④

地	年度	番	遺跡名	調査地区	所属	調査名 称	掘削深度	造成土厚	概 要	文献
207	1998	42	津島北	AW02, AW02	環	馬場移設に伴う樹木移植	2.2	1.1~1.3	2.0mで弥生後期層, 2.2~3.0mで南文基盤層まで掘削	◎
208	1998	44	津島北	AW03, AW03	環	校舎新常に伴う生活排水 樹木移植工事	1.97	1.4	古墳時代層まで掘削。須恵器・土師器片採集。	◎
209	1998	48	津島北	AW03	環	校舎新宮に伴うガス管理 設工事	1.45	1.0	中世層まで掘削	◎

※免振調査・試掘調査については全てを、立会調査については掘削が中世層以下に及んだもののみを掲載している。
文献番号は附表3・4に対応する。

附表3 埋蔵文化財調査室刊行物

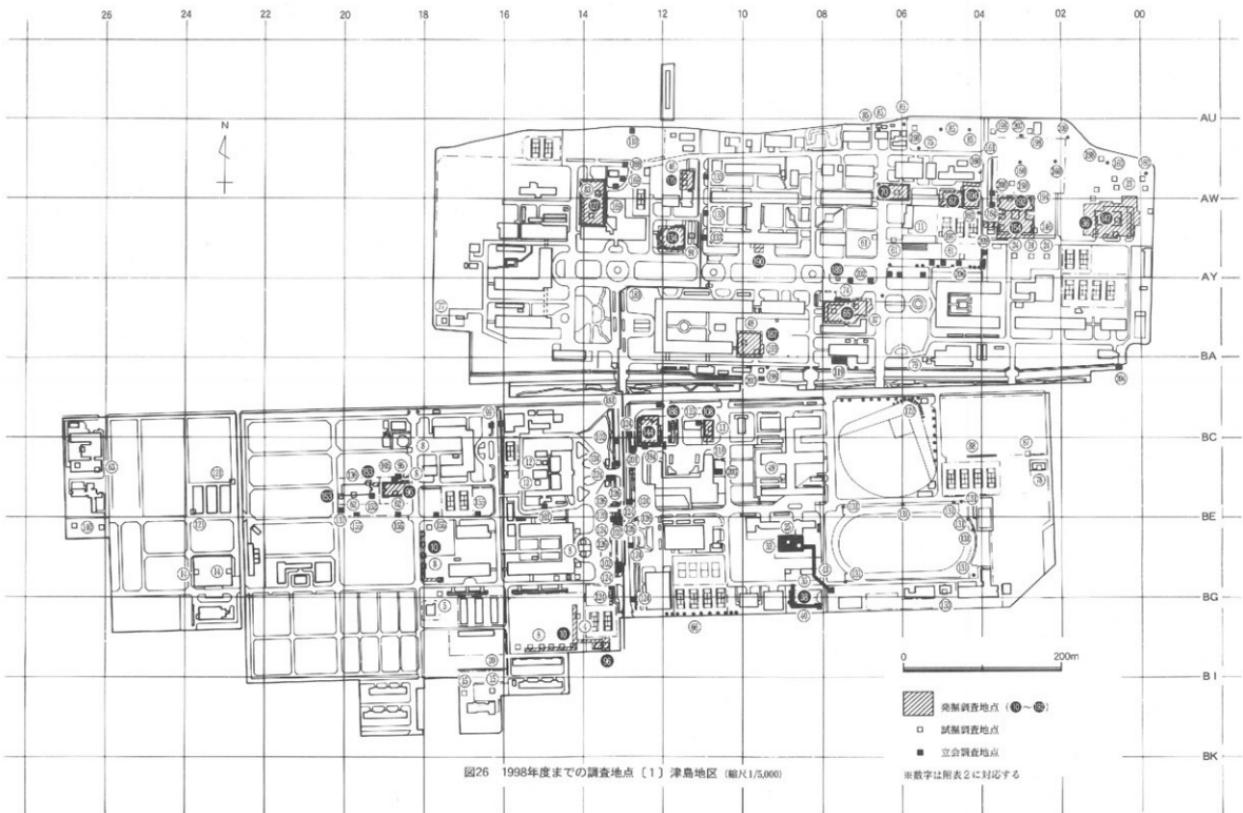
番号	名 称	発行年月日
1	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月
2	岡山人学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月
3	岡山大学津島地区小穂法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集	1985年5月
4	岡山人学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅰ(農学部構内BII13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第2冊	1986年3月
5	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1987年度	1985年3月
6	岡山人学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月

附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
7	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊	1988年3月
8	岡山人学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第1号	1988年10月
10	鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊	1990年3月
11	岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第2号	1989年5月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月
15	岡山人学埋蔵文化財調査研究センター報第4号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第5号	1991年3月
17	岡山人学埋蔵文化財調査研究センター報第6号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月
19	津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊	1992年3月
20	岡山人学埋蔵文化財調査研究センター報第7号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第8号	1992年8月
23	岡山人学埋蔵文化財調査研究センター報第9号	1993年3月

附表

番号	名 称	発行年月日
24	鹿田遺跡 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第10号	1993年11月
27	津島岡大遺跡 4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第11号	1994年3月
29	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第13号	1995年3月
32	津島岡大遺跡 5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第14号	1995年10月
35	津島岡大遺跡 6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊	1995年12月
36	津島岡大遺跡 7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊	1996年2月
37	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究年報13 1995年度	1996年10月
39	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第16号	1996年10月
40	鹿田遺跡 4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊	1997年3月
41	津島岡大遺跡 8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊	1997年3月
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第17号	1997年3月
43	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第18号	1997年9月
44	岡山大学構内遺跡調査研究年報14 1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島岡大遺跡 9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊	1997年12月
47	津島岡大遺跡 10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊	1998年3月
48	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第19号	1998年3月
49	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究年報15 1997年度	1999年1月
51	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第21号	1999年3月
52	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第22号	1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究年報16 1998年度	2000年1月
54	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第23号	2000年3月
55	福昌遺跡 1 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊	2000年3月



1998年度までの調査地点

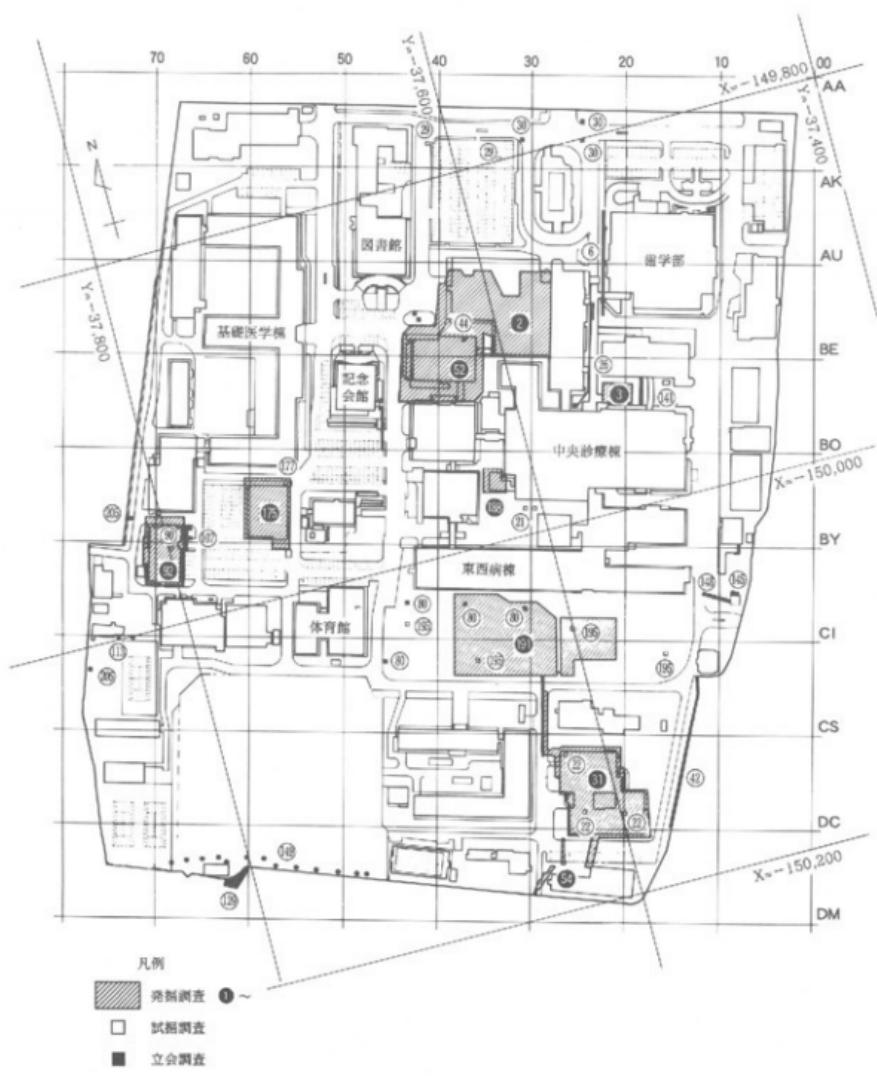


図27 1998年度までの調査地点〔2〕鹿田地区 (縮尺1/3,000)

1998年度までの調査地点



図28 1998年度までの調査地点〔3〕三朝地区 (縮尺1/3,000)

2000年8月22日 印刷
2000年8月31日 発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報17 1999年度

編集・発行 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山市津島中3丁目1番1号
(086)251-7290
印 刷 西日本法規出版株式会社
岡山市高柳西町1-23
(086)255-2181(代)